人 口 動 態 総 覧

佐賀県

	実数			率				全国順位	27年平均発生間隔
	平成27年	平成26年	増 減	平成27年	平成26年	増 減	全国27年		
									時 分 秒
出 生	7 064	7 159	△ 95	8.5	8.6	△ 0.1	8.0	8	1 14 24
（男）	(3 662)	(3 667)	(△ 5)	(9.4)	(9.4)	(0.0)	(8.4)	6	2 23 32
（女）	(3 402)	(3 492)	(△ 90)	(7.8)	(8.0)	(△ 0.2)	(7.6)	11	2 34 30
死 亡	9 702	9 732	△ 30	11.7	11.7	0.0	10.3	21	0 54 10
（男）	(4 687)	(4 801)	(△ 114)	(12.0)	(12.2)	(△ 0.2)	(10.9)	24	1 52 8
（女）	(5 015)	(4 931)	(84)	(11.5)	(11.2)	(0.3)	(9.7)	20	1 44 48
乳 児 死 亡	7	9	△ 2	1.0	1.3	△ 0.3	1.9	46	1251 25 43
新生児死亡	2	5	△ 3	0.3	0.7	△ 0.4	0.9	46	4380 0 0
自 然 増 減	△ 2 638	△ 2 573	△ 65	△ 3.2	△ 3.1	△ 0.1	△ 2.3	20	…
死 産	163	162	1	22.6	22.1	0.5	22.0	20	53 44 32
自 然 死 産	82	74	8	11.3	10.1	1.2	10.6	16	106 49 45
人 工 死 産	81	88	△ 7	11.2	12.0	△ 0.8	11.4	23	108 8 53
周 産 期 死 亡	24	26	△ 2	3.4	3.6	△ 0.2	3.7	32	365 0 0
妊娠満22週以後の 死 産	22	23	△ 1	3.1	3.2	△ 0.1	3.0	22	398 10 55
早期新生児死亡	2	3	△ 1	0.3	0.4	△ 0.1	0.7	45	4380 0 0
婚 姻	3 692	3 928	△ 236	4.5	4.7	△ 0.2	5.1	34	2 22 22
離 婚	1 354	1 324	30	1.63	1.59	0.04	1.81	36	6 28 11
合計特殊出生率	…	…	…	1.64	1.63	0.01	1.45	8	…
生活習慣病死亡 悪性新生物	2 698	2 798	△ 100	325.5	336.7	△ 11.2	295.5	19	
生活習慣病死亡 心 疾 患	1 261	1 387	△ 126	152.1	166.9	△ 14.8	156.5	37	
生活習慣病死亡 脳血管疾患	836	880	△ 44	100.9	105.9	△ 5.0	89.4	25	

注：１） 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対、生活習慣病死亡率は人口１０万対である。

２） 合計特殊出生率とは、「15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

３） 全国順位は高率順位である。

４） （ ）はそれぞれ、出生と死亡の内数。

第１章　出　　生

１　出生の動き

平成 27 年の本県の出生数は 7,064 人で 1 時間 14 分 24 秒に 1 人の割合で生まれたことになり、前年より 95 人減少し、出生率（人口千対）は 8.5 で前年の 8.6 を下回った。

本県の出生率は戦後急激に上昇したが､昭和 24 年のベビーブームをピークにその後次第に低下した。37 年以降は 41 年の「ひのえうま」を除いてほぼ横ばいであったが、50 年以降徐々に低下し、平成 15 年からは戦後初めて自然増がマイナスに転じた。

出生率を全国と比較すると、図 1 のように昭和 37 年頃から全国より低率で推移していたが、54 年からは再び高率となり平成 27 年は全国 8 位であった。

図１　出生数及び出生率の年次推移

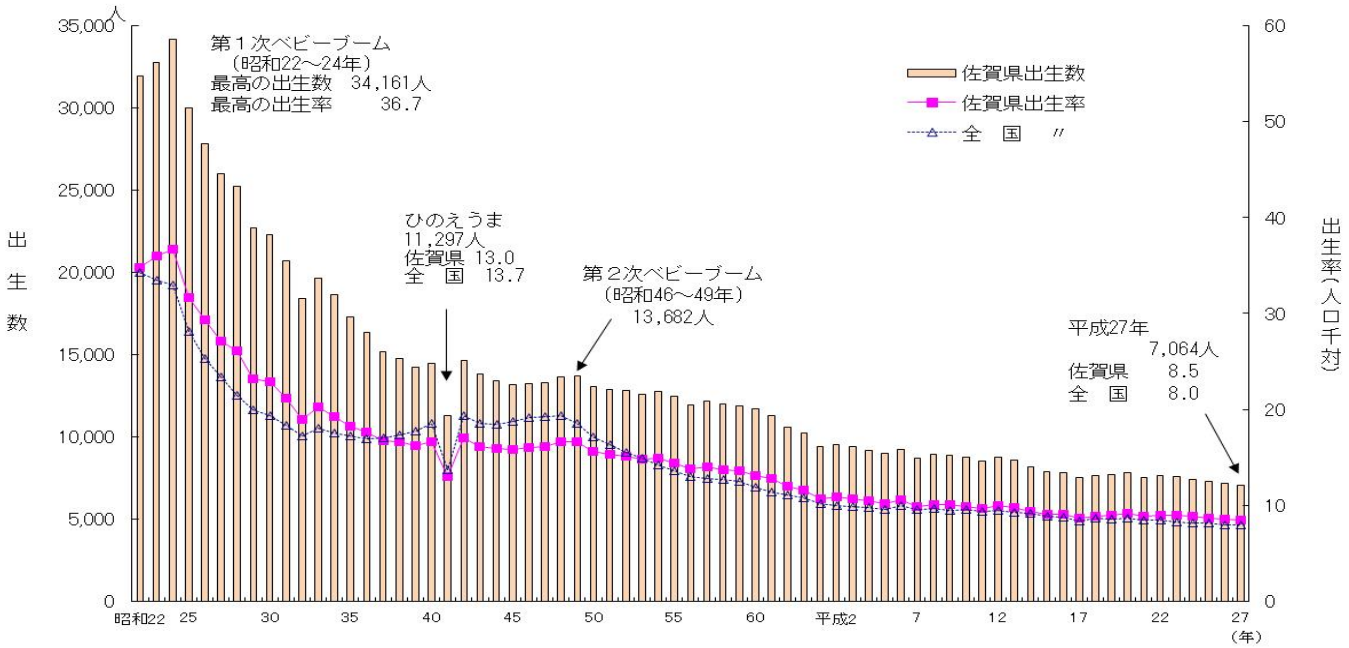


表１　出生率・合計特殊出生率・総再生産率の年次推移

年次	出　生　率		合計特殊出生率		総再生産率	
	佐賀県	全　国	佐賀県	全　国	佐賀県	全　国
昭和 22 年	34.8	34.3	…	4.54	…	2.21
25	31.7	28.1	…	3.65	…	1.77
30	22.9	19.4	…	2.37	1.45	1.15
35	18.3	17.2	2.35	2.00	1.14	0.97
40	16.6	18.6	2.28	2.14	1.11	1.04
45	15.8	18.8	2.13	2.13	1.01	1.03
50	15.6	17.1	2.03	1.91	0.97	0.93
55	14.4	13.6	1.93	1.75	0.93	0.85
60	13.1	11.9	1.95	1.76	0.94	0.86
平成 2	10.9	10.0	1.75	1.54	0.84	0.75
7	9.9	9.6	1.64	1.42	0.80	0.69
12	10.0	9.5	1.67	1.36	0.80	0.66
17	8.7	8.4	1.48	1.26	0.73	0.62
22	9.0	8.5	1.61	1.39	0.79	0.67
24	8.9	8.2	1.61	1.41	0.80	0.68
25	8.7	8.2	1.59	1.43	0.81	0.70
26	8.6	8.0	1.63	1.42	0.82	0.69
27	**8.5**	**8.0**	**1.64**	**1.45**	**0.79**	**1.71**

2　合計特殊出生率

これからの人口の動向をみるものとして重要な合計特殊出生率（P7 注:2）の平成 27 年は、1.64 で前年の 1.63 を上回った。昭和 50 年までは 2.0 台で推移していたが、以後ほぼ低下し続け、平成 17 年の 1.48 は全国 7 位とはいえ過去最低を記録した。その後、1.51 とわずかながら上昇に転じ、平成 22 年以降ほぼ横ばいで推移している。

平成 27 年の合計特殊出生率を母の年齢(5 歳階級)別にみると、20～24 歳は減少し、その他の階級では上昇した。

図２　合計特殊出生率の年次推移　（佐賀県）

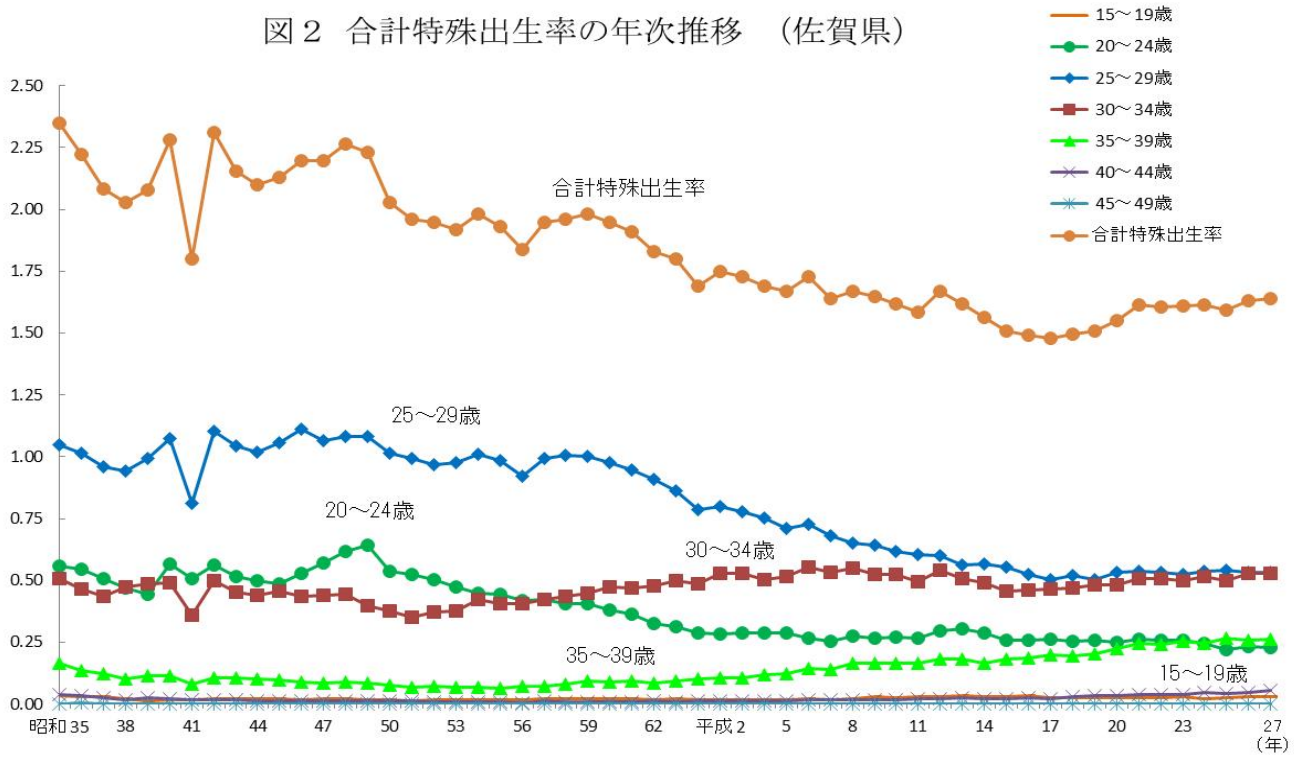


表２　年齢階級別にみた合計特殊出生率の年次推移

佐賀県

母の年齢	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	25年	26年	**27年**
合　計	2.35	2.28	2.13	2.03	1.93	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.59	1.63	**1.64**
歳														
15～19	0.0352	0.0156	0.0202	0.0160	0.0190	0.0204	0.0163	0.0192	0.0317	0.0273	0.0261	0.0250	0.0279	**0.0282**
20～24	0.5565	0.5652	0.4848	0.5363	0.4443	0.3813	0.2850	0.2544	0.2949	0.2619	0.2621	0.2200	0.2334	**0.2285**
25～29	1.0465	1.0753	1.0584	1.0162	0.9856	0.9743	0.7990	0.6801	0.5994	0.5016	0.5360	0.5390	0.5308	**0.5337**
30～34	0.5067	0.4923	0.4565	0.3763	0.4079	0.4750	0.5272	0.5336	0.5396	0.4668	0.5069	0.4996	0.5300	**0.5302**
35～39	0.1653	0.1126	0.0962	0.0779	0.0625	0.0910	0.1061	0.1385	0.1805	0.1987	0.2439	0.2657	0.2585	**0.2641**
40～44	0.0365	0.0197	0.0143	0.0116	0.0074	0.0108	0.0143	0.0167	0.0214	0.0212	0.0378	0.0438	0.0459	**0.0571**
45～49	0.0015	0.0008	0.0009	0.0006	0.0010	0.0007	0.0004	0.0007	0.0005	0.0005	0.0004	0.0010	0.0004	**0.0014**

表３　母の年齢階級別にみた出生数の年次推移

佐賀県

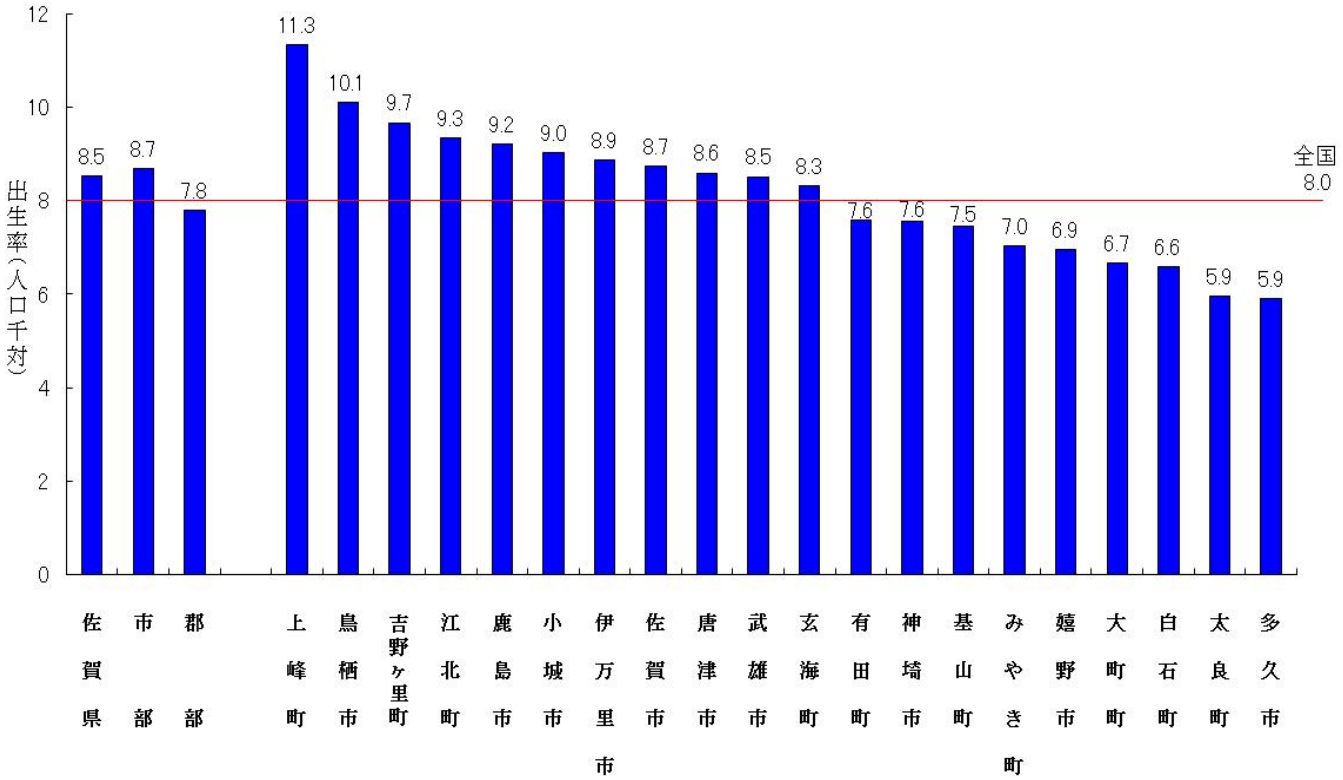
母の年齢（歳）	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	25年	26年	**27年**
合　計	17,294	14,443	13,187	13,085	12,466	11,705	9,555	8,729	8,745	7,508	7,640	7,276	7,159	**7,064**
～19	296	147	170	109	119	123	105	119	180	133	111	110	117	**117**
20～24	4,341	3,730	3,692	3,647	2,630	2,087	1,470	1,422	1,529	1,226	1,037	836	887	**807**
25～29	7,744	6,452	6,007	6,707	6,578	5,691	4,214	3,490	3,248	2,540	2,449	2,264	2,123	**2,083**
30～34	3,648	3,249	2,615	2,107	2,738	3,123	2,972	2,787	2,718	2,494	2,542	2,398	2,438	**2,409**
35～39	1,058	743	609	436	353	616	696	795	944	1,001	1,308	1,435	1,344	**1,333**
40～44	197	118	89	74	42	61	96	111	123	111	191	228	248	**308**
45～49	8	4	5	4	6	4	2	5	3	3	2	5	2	**7**
50～	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	**-**
不詳	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	**-**

３　地域別にみた出生

地域別の出生状況は図３のとおりで、出生率は概ね市部が郡部より高くなっている。

平成 27 年の地域別の出生率をみると、上峰町が出生率 11.3 で第１位となり、平成 26 年と比較して最も率の増減が大きかったのは、鹿島市が前年の 8.1 から 9.2 へと上昇し、江北町が 10.9 から 9.3 へと下降している。

図３　地域別出生率　平成27年　（佐賀県）



4　出生順位

出生順位別出生割合の年次推移を図４でみると、昭和 35 年には第３子以上が全体の 35.3%を占め、続いて第１子 35.1%、第２子 29.6%であったが、その後第３子以上の割合が急激に減少し、50 年には第１子 41.2%、第２子 37.6%、第３子以上 21.2%となった。

昭和 55 年から平成 2 年までは第１子はほぼ横ばい、第２子は減少、第３子以上は増加傾向にあったが、その後、第１子は増加、第２子は横ばい、第３子以上は減少傾向となった。平成 14 年の 44.6%をピークに出生数に占める第１子の割合は低下傾向となり、平成 27 年は第１子 42.7%、第２子 34.5%、第３子以上 22.8%となった。

図4　出生順位別出生割合の年次推移（佐賀県）

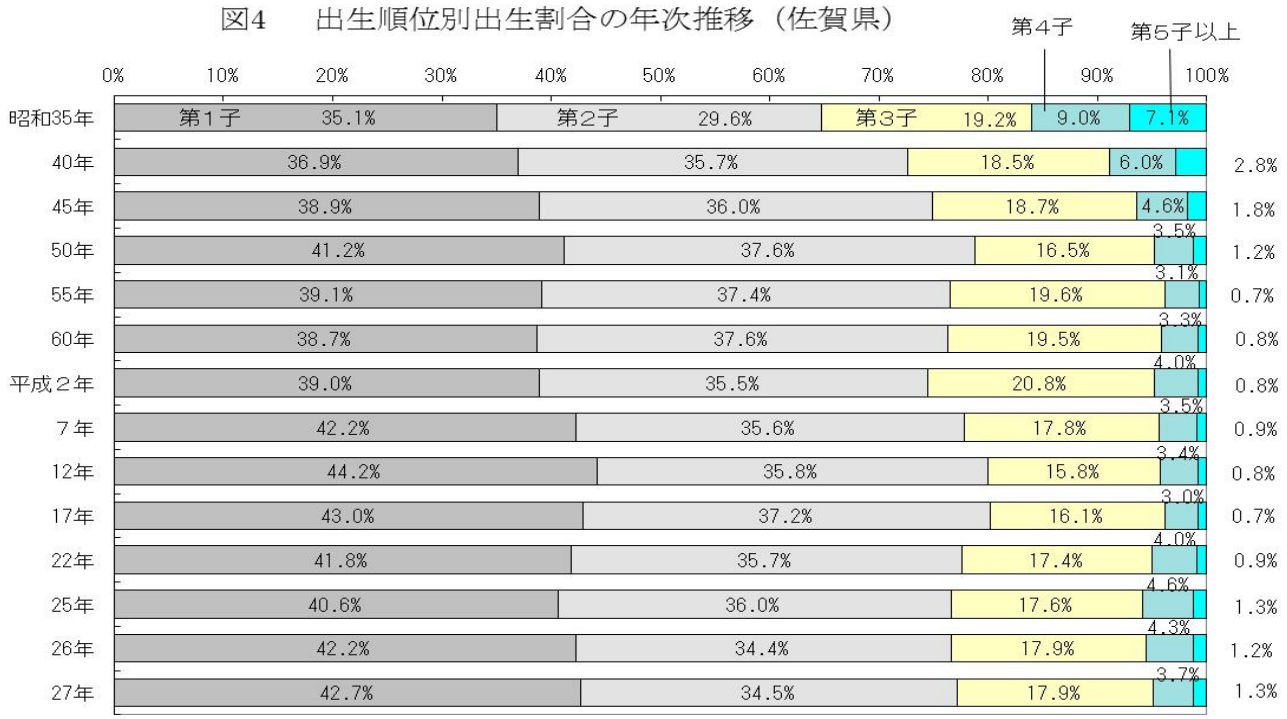


表４　出生順位別にみた出生数の年次推移

佐賀県

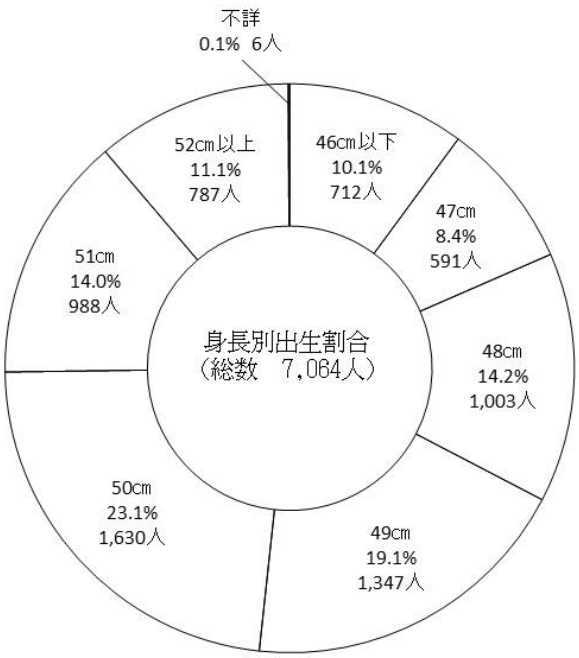
出生順位	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	25年	26年	**27年**
総　数	17 294	14 443	13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 508	7 640	7 276	7 159	**7 064**
第1子	6 062	5 333	5 129	5 391	4 878	4 531	3 722	3 686	3 862	3 225	3 196	2 956	3 022	**3 018**
第2子	5 126	5 153	4 745	4 918	4 665	4 406	3 389	3 107	3 134	2 793	2 731	2 616	2 464	**2 436**
第3子	3 325	2 679	2 469	2 153	2 448	2 282	1 983	1 552	1 380	1 207	1 333	1 277	1 278	**1 261**
第4子	1 559	868	613	464	388	392	382	304	296	227	309	335	308	**259**
第5子以上	1 222	410	231	159	87	94	79	80	73	56	71	92	87	**90**

5　出生時の子の身長

平成 27 年の出生時の平均身長は 49.1 ㎝で、男 49.4 ㎝、女 48.9 ㎝となっている。

また、身長別出生割合は図 5 のとおりで、50 ㎝が 23.1%で最も多く、続いて 49 ㎝が 19.1%、48 ㎝が 14.2%となっている。

図 5　身長別出生割合　平成27年（佐賀県）



6　出生時の子の体重

平成 27 年の出生時の平均体重は 3.02 kgで、男 3.06 kg、女 2.98 kgとなっている。

また、2,500ｇ未満の低体重児の出生割合の年次推移を表 5 でみると、昭和 45 年の 6.9%から減少していたが、昭和 60 年以降増加傾向に転じ、その後概ね 9%前後で推移し、平成 27 年は、9.1%となっている。

平成 27 年における低体重児の性別出生割合は男 8.4%、女 9.9%で、各年を通じて女の割合が高くなっている。

平成27年の体重別出生割合は図6のとおりで、3.0 kg以上 3.5 kg未満が全体の 42.1%を占め、この前後の 2.5 kg以上 3.0 kg未満、3.5 kg以上 4.0 kg未満を合わせると 90.1%になる。

図 6　体重別出生割合　平成27年（佐賀県）

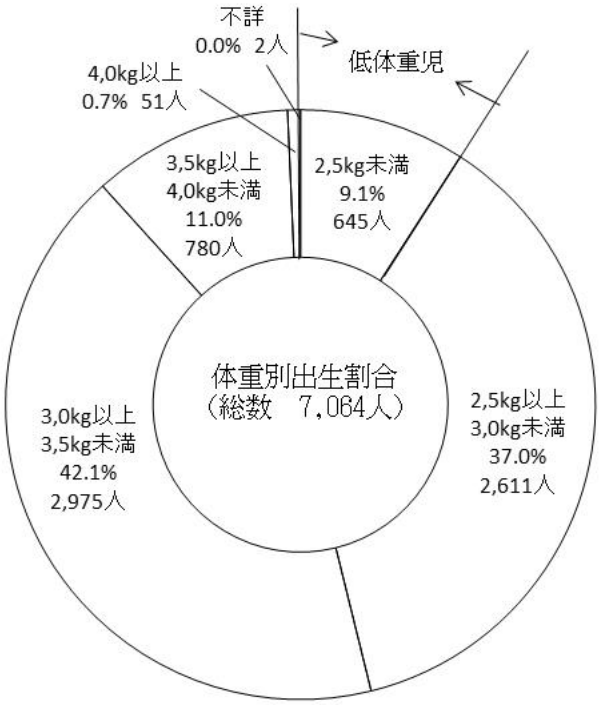


表５　平均体重・低体重児の数と割合の年次推移

佐賀県

年次	平均体重		総数			男			女		
	男 kg	女 kg	全出生数 a	2,500g未満出生数 b	割合 b/a×100 %	全出生数	2,500g未満出生数	割合 %	全出生数	2,500g未満出生数	割合 %
昭和 45 年	3.19	3.10	13 187	908	6.9	6 920	454	6.6	6 267	454	7.2
50	3.21	3.15	13 085	739	5.6	6 805	384	5.6	6 280	355	5.7
55	3.21	3.14	12 466	680	5.5	6 455	323	5.0	6 011	357	5.9
60	3.18	3.11	11 705	715	6.1	6 032	349	5.8	5 673	366	6.5
平成 2	3.15	3.07	9 555	642	6.7	4 970	305	6.1	4 585	337	7.4
7	3.12	3.03	8 729	664	7.6	4 473	327	7.3	4 256	337	7.9
8	3.10	3.03	8 941	704	7.9	4 610	342	7.4	4 331	362	8.4
9	3.10	3.02	8 909	757	8.5	4 496	344	7.7	4 413	413	9.4
10	3.10	3.02	8 741	698	8.0	4 468	322	7.2	4 273	376	8.8
11	3.09	3.01	8 551	733	8.6	4 422	340	7.7	4 129	393	9.5
12	3.10	3.01	8 745	750	8.6	4 578	348	7.6	4 167	402	9.6
13	3.08	3.00	8 561	761	8.9	4 329	343	7.9	4 232	418	9.9
14	3.08	2.99	8 202	744	9.1	4 240	353	8.3	3 962	391	9.9
15	3.07	3.01	7 898	699	8.9	3 972	341	8.6	3 926	358	9.1
16	3.08	2.98	7 844	691	8.8	4 063	304	7.5	3 781	387	10.2
17	3.05	2.97	7 508	718	9.6	3 783	311	8.2	3 725	407	10.9
18	3.07	2.98	7 647	735	9.6	4 023	340	8.5	3 624	395	10.9
19	3.07	2.98	7 703	741	9.6	3 944	334	8.5	3 759	407	10.8
20	3.05	2.97	7 819	755	9.7	3 975	345	8.7	3 844	410	10.7
21	3.05	2.97	7 518	677	9.0	3 818	312	8.2	3 700	365	9.9
22	3.04	2.96	7 640	749	9.8	3 943	351	8.9	3 697	398	10.8
25	3.06	2.97	7 276	707	9.7	3 690	328	8.9	3 586	379	10.6
26	3.04	2.96	7 159	675	9.4	3 667	312	8.5	3 492	363	10.4
27	**3.06**	**2.98**	**7 064**	**645**	**9.1**	**3 662**	**308**	**8.4**	**3 402**	**337**	**9.9**

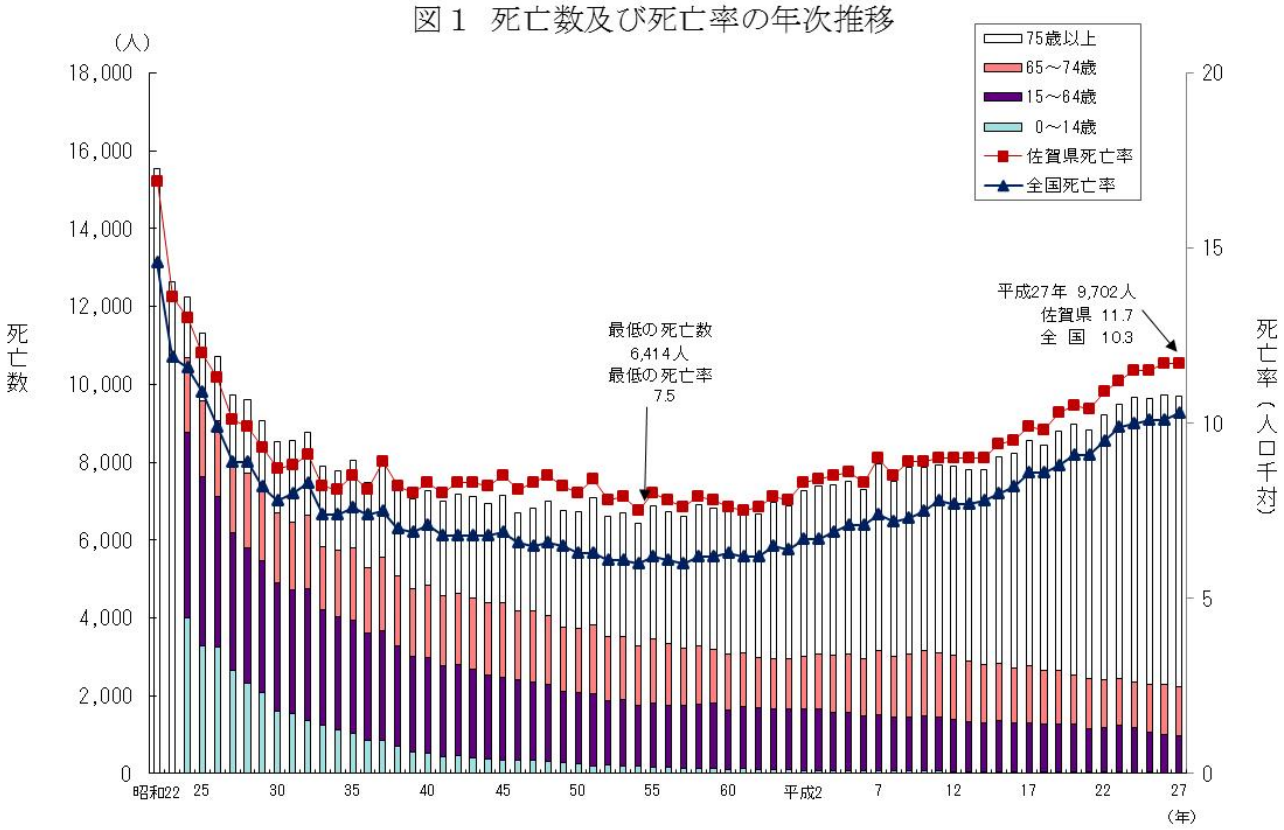
第２章　死　　亡

１　死亡の動き

平成 27 年の本県死亡者数は 9,702 人で、54 分 10 秒に 1 人の割合で亡くなったことになり、前年より 30 人減少し、人口千対死亡率は 11.7 で前年と同率であった。

本県の死亡率の年次推移は図 1 のとおりで、戦後は医薬の進歩、公衆衛生の発展によって、およそ 10 年間に死亡率が半減する低下傾向をみせた。しかし、昭和 30 年代に入ってからは、年によっては前年をわずかに上回ることもあるが、おおむね横ばい状態となっていた。近年は、人口の高齢化の進展に伴い、死亡率がやや上昇してきている。

図１　死亡数及び死亡率の年次推移



本県の死亡率を全国と比べると、各年次とも平均をかなり上回っているが、その主な原因は高齢人口の割合が高いことによる。

一般に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和 60 年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるべきであるが、表 1 のとおり、基準人口に全国の人口を使用した本県の年齢調整死亡率は、いずれの年も粗死亡率を下回り、全国の死亡率に近い率になっている。

表１　粗死亡率・年齢調整死亡率の比較

年次	佐賀県		全国
	粗死亡率	年齢調整死亡率	死亡率
昭和　35　年	8.5	7.7	7.6
40	8.3	7.3	7.1
45	8.5	7.1	6.9
50	8.0	6.4	6.3
55	8.0	6.3	6.2
60	7.6	6.2	6.3
平成　2　年	8.3	6.8	6.7
7	9.0	7.5	7.4
12	9.0	7.7	7.7
17	9.9	8.5	8.6
22	10.9	9.4	9.5
24	11.5	10.0	10.0
25	11.5	10.0	10.1
26	11.7	10.2	10.1
27	**11.7**	**10.2**	**10.3**

注）　基準人口は、各年日本人人口を使用した。

2　季節別にみた死亡

図２により死亡率の季節変動をみると、平成27年は１月～3月の時期が高く、７月～9月が低くなっている。

死因と季節の関係についてみると表２のとおりで、特に心疾患や肺炎などは冬期の死亡率が高くなっている。

図２　死亡率の季節変動（佐賀県）

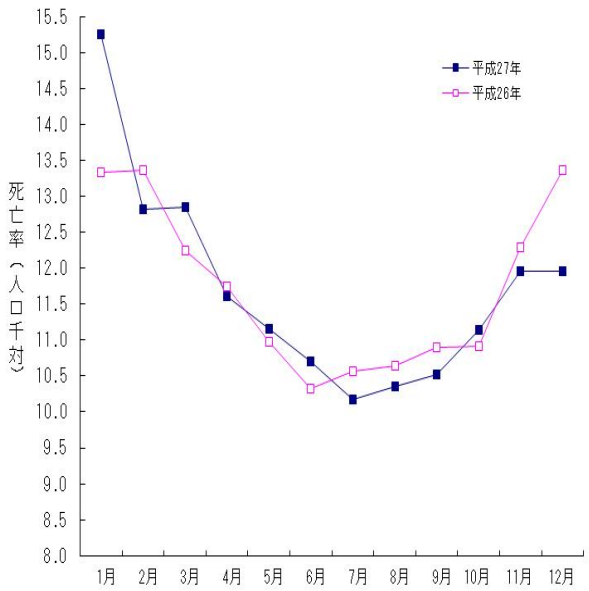


表２　主な死因別・月別死亡率（人口１０万対）

平成27年　佐賀県

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総　　数	1170.4	1525.5	1281.6	1285.4	1161.0	1115.0	1070.0	1017.0	1035.5	1052.4	1113.6	1196.2	1196.0
悪性新生物	325.5	329.5	352.3	330.9	325.8	323.8	312.6	292.6	321.0	309.7	326.7	343.4	339.5
心疾患（高血圧性除く）	152.1	221.6	169.8	188.9	162.9	130.7	136.5	127.8	120.7	121.8	130.7	160.0	154.8
肺炎	133.1	204.5	144.7	144.9	136.5	113.6	133.6	92.3	109.4	116.0	126.4	127.7	147.7
脳血管疾患	100.9	122.2	103.8	116.5	104.2	85.2	88.1	83.8	96.6	93.9	95.2	121.8	99.4
老衰	62.4	78.1	66.0	68.2	64.6	58.2	48.4	52.6	54.0	64.6	79.5	58.7	55.4
不慮の事故	39.6	73.9	48.7	46.9	30.8	25.6	33.8	46.9	19.9	32.3	28.4	33.8	54.0
腎不全	22.8	32.7	29.9	24.1	23.5	22.7	13.2	25.6	21.3	19.1	15.6	22.0	24.1
慢性閉塞性肺疾患	17.9	18.5	20.4	15.6	19.1	27.0	10.3	15.6	17.0	11.7	21.3	16.1	21.3
自殺	16.6	21.3	12.6	24.1	20.5	14.2	8.8	15.6	8.5	17.6	17.0	19.1	19.9
肝疾患	14.2	22.7	14.2	21.3	20.5	9.9	7.3	11.4	14.2	19.1	12.8	8.8	8.5
糖尿病	12.5	7.1	12.6	14.2	4.4	14.2	16.1	17.0	17.0	13.2	12.8	8.8	12.8
高血圧性疾患	7.7	1.4	6.3	11.4	7.3	15.6	13.2	2.8	9.9	2.9	7.1	5.9	8.5

注：各月の率は年率に換算したものである。

$$\text{月別死亡率} = \frac{\text{月間の死因別死亡数} \times \dfrac{\text{年間の日数}}{\text{月間の日数}}}{\text{（日本人）人　　口}} \times 100{,}000$$

3　地域別にみた死亡

死亡率を市町別にみたものが表3、図3である。

一般的に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和60年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるが、これによると粗死亡率ほどには各地域間の高低は目立たない。

年齢調整死亡率を地域別に比較すると、市部では唐津市が10.9で最高、鳥栖市及び嬉野市が9.6で最低となっている。郡部では藤津郡が11.4と最高で、三養基郡が9.6で最低となっている。

保健所別にみると唐津保健所が10.9で最高、鳥栖保健所が9.6で最低となっている。

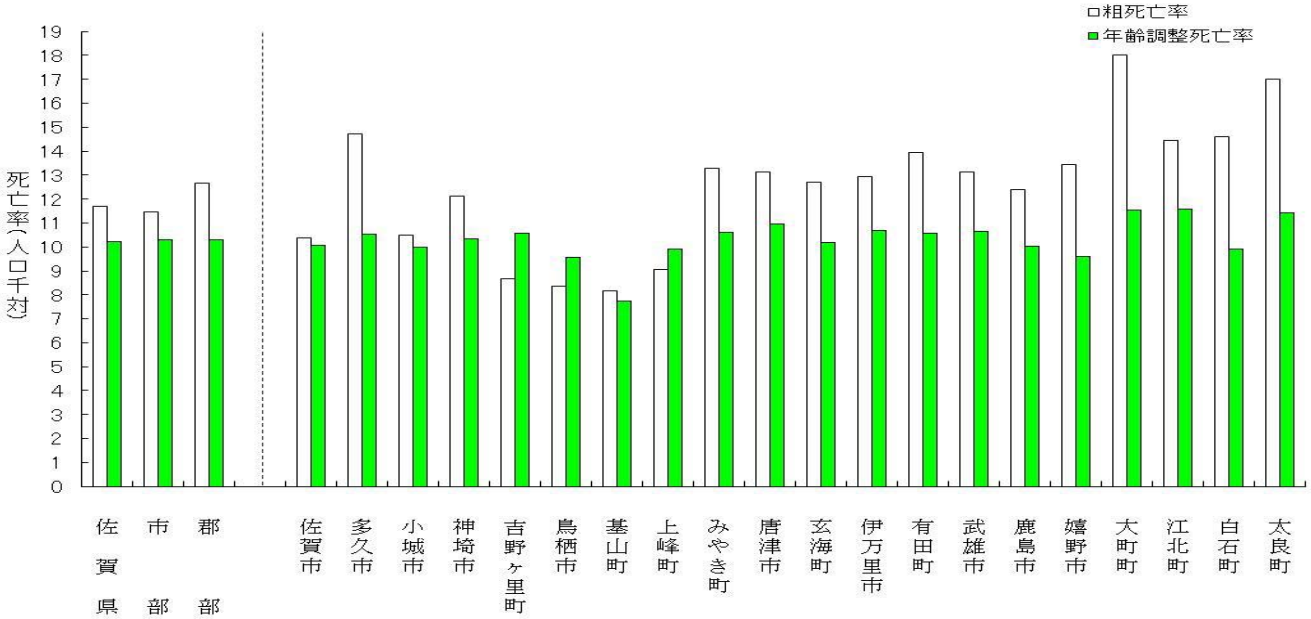
表３　粗死亡率・年齢調整死亡率―保健所・市町別（人口千対）

平成27年

保健所別 市郡	粗死亡率	年齢調整死亡率	保健所別 市郡	粗死亡率	年齢調整死亡率
佐賀県	11.7	10.2	唐津保健所	13.1	10.9
市部	11.5	10.3	唐津市	13.1	10.9
郡部	12.7	10.3	東松浦郡	12.7	10.2
			玄海町	12.7	10.2
佐賀中部保健所	10.7	10.1	伊万里保健所	13.2	10.7
佐賀市	10.4	10.1	伊万里市	13.0	10.7
多久市	14.7	10.5	西松浦郡	14.0	10.6
小城市	10.5	10.0	有田町	14.0	10.6
神埼市	12.2	10.3	杵藤保健所	13.8	10.4
神埼郡	8.7	10.6	武雄市	13.1	10.7
吉野ヶ里町	8.7	10.6	鹿島市	12.4	10.0
鳥栖保健所	9.4	9.6	嬉野市	13.5	9.6
鳥栖市	8.4	9.6	杵島郡	15.2	10.6
三養基郡	10.8	9.6	大町町	18.0	11.6
基山町	8.2	7.7	江北町	14.5	11.6
上峰町	9.1	9.9	白石町	14.6	9.9
みやき町	13.3	10.6	藤津郡	17.0	11.4
			太良町	17.0	11.4

注：基準人口は推計人口（日本人）を使用した。

図３　市町別粗死亡率・年齢調整死亡率　平成27年



4　年齢階級別にみた死亡

死亡率を年齢階級別にみると図 4、表 4 のとおりである。

出生後まもなくは環境に対する適応性が備わっていないため死亡率はやや高く、5～9 歳及び 10～14 歳で最も低くなる。その後 59 歳ごろまでは緩やかに上昇し、以後は急速に上昇していたが、近年この年齢が次第に高くなっている。

年齢と死因については表 5 のとおりで、1 歳未満では周産期に発生した病態と出生時の先天奇形及び染色体異常が 57.2%を占めている。

15～34 歳では、自殺が死因の第 1 位となっており、不慮の事故を含めた疾病以外の死因が大きな割合を占めている。

35～89 歳まで 1 位である悪性新生物は、若年層からも重視される死因となっている。

90 歳以上にあっては、心疾患が 1 位である。

図 4　年齢階級別死亡率の年次比較　　佐賀県

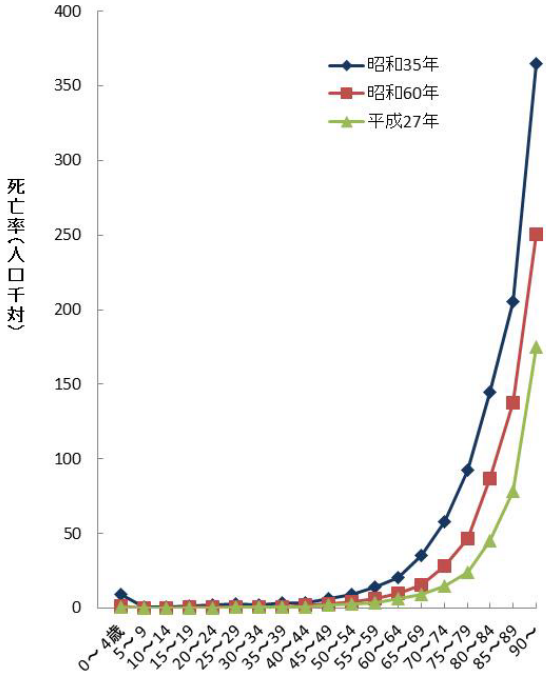


表 4　年齢階級別死亡率（人口千対）の年次推移

年齢階級	佐賀県														全国
	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	25年	26年	**27年**	27年
総　数	8.5	8.3	8.5	8.0	8.0	7.8	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.5	11.7	**11.7**	10.3
0～ 4歳	9.4	6.0	4.5	2.9	2.1	1.7	1.2	1.3	0.9	0.4	0.7	0.7	0.3	**0.4**	0.5
5～ 9	1.0	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	**0.1**	0.1
10～14	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	**0.1**	0.1
15～19	1.2	1.0	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	**0.2**	0.2
20～24	2.4	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.2	**0.3**	0.4
25～29	2.6	2.0	1.3	1.0	0.8	0.5	0.6	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4	0.4	**0.4**	0.4
30～34	2.4	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	0.6	0.8	0.8	0.6	0.5	0.5	0.5	**0.4**	0.5
35～39	3.2	2.4	2.0	1.7	1.5	1.0	1.3	0.9	1.1	0.9	0.8	0.7	0.7	**0.6**	0.7
40～44	3.8	3.5	2.8	2.9	2.1	1.8	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.1	1.0	**1.0**	1.0
45～49	6.1	5.6	4.8	3.8	3.1	3.0	2.4	2.1	2.3	2.2	2.0	1.6	2.0	**1.8**	1.6
50～54	9.2	7.6	6.3	5.4	5.1	4.5	4.1	4.0	4.2	3.4	3.1	2.6	2.5	**2.7**	2.5
55～59	14.2	12.6	10.0	8.5	7.1	6.0	6.3	5.9	5.4	5.3	4.2	4.5	3.8	**3.7**	3.8
60～64	20.8	18.8	16.9	13.2	11.6	9.7	10.0	9.4	7.8	7.3	6.6	6.1	6.4	**6.1**	6.2
65～69	35.4	32.7	28.5	21.1	19.2	15.2	13.2	14.5	13.0	11.5	9.7	9.0	9.6	**9.2**	9.1
70～74	57.6	49.0	46.4	36.9	33.0	27.9	23.1	21.5	19.6	18.5	16.3	15.6	15.1	**14.5**	14.7
75～79	92.7	80.5	79.4	66.3	58.1	46.8	43.1	38.5	31.4	30.8	26.8	25.2	25.1	**24.1**	24.2
80～84	144.3	142.8	126.7	110.2	98.5	86.9	72.2	70.1	53.9	47.8	47.4	47.6	46.7	**45.3**	44.4
85～89	205.6	206.6	205.2	169.4	159.1	137.6	125.5	117.4	99.5	88.1	85.0	86.0	80.7	**78.3**	81.4
90～	365.0	263.6	276.5	277.4	266.6	250.5	235.8	205.1	173.6	167.6	176.0	169.0	172.8	**175.0**	175.5
（再掲）															
85～	232.0	217.2	220.7	193.0	182.8	164.3	155.3	143.6	124.4	118.7	118.2	116.9	115.8	**114.7**	115.4

表５　年齢階級別死因順位

平成27年

年齢階級	第１位			第２位			第３位			第４位			第５位		
	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %
総　数	悪性新生物	2698	27.8	心　疾　患	1261	13.0	肺　　炎	1103	11.4	脳血管疾患	836	8.6	老　　衰	517	5.3
０歳	先天奇形,変形及び染色体異常	3	42.9				周産期に発生した病態	1	14.3						
	その他のすべての疾患	3	42.9												
１～４	不慮の事故	2	33.3												
５～９	悪性新生物	1	25.0												
	不慮の事故	1	25.0												
１０～１４	悪性新生物	1	33.3												
	脳血管疾患	1	33.3												
１５～１９	不慮の事故	2	28.6				心　疾　患	1	14.3						
	自　　殺	2	28.6												
２０～２４	自　　殺	4	40.0	悪性新生物	1	10.0									
				不慮の事故	1	10.0									
２５～２９	自　　殺	6	35.3	悪性新生物	3	17.6	不慮の事故	2	11.8	糖　尿　病	1	5.9			
										心　疾　患	1	5.9			
３０～３４	自　　殺	7	36.8	悪性新生物	5	26.3	心　疾　患	2	10.5	脳血管疾患	1	5.3			
										肺　　炎	1	5.3			
										不慮の事故	1	5.3			
３５～３９	悪性新生物	11	36.7	自　　殺	7	23.3	不慮の事故	5	16.7	脳血管疾患	2	6.7	心　疾　患	1	3.3
													大動脈瘤及び解離	1	3.3
													喘　　息	1	3.3
４０～４４	悪性新生物	14	25.5	自　　殺	13	23.6	心　疾　患	10	18.2	肺　　炎	5	9.1	不慮の事故	4	7.3
４５～４９	悪性新生物	25	28.1	脳血管疾患	12	13.5	心　疾　患	8	9.0	自　　殺	7	7.9	不慮の事故	6	6.7
５０～５４	悪性新生物	61	44.2	脳血管疾患	20	14.5	自　　殺	10	7.2	心　疾　患	9	6.5			
										不慮の事故	9	6.5			
５５～５９	悪性新生物	91	44.4	脳血管疾患	18	8.8	心　疾　患	16	7.8	自　　殺	14	6.8	不慮の事故	13	6.3
６０～６４	悪性新生物	190	48.6	心　疾　患	37	9.5	不慮の事故	16	4.1				肺　　炎	15	3.8
							自　　殺	16	4.1						
６５～６９	悪性新生物	283	48.7	心　疾　患	41	7.1	脳血管疾患	40	6.9	不慮の事故	27	4.6	肺　　炎	25	4.3
７０～７４	悪性新生物	309	45.9	心　疾　患	63	9.4	脳血管疾患	44	6.5				不慮の事故	30	4.5
							肺　　炎	44	6.5						
７５～７９	悪性新生物	395	39.0	心　疾　患	92	9.1	肺　　炎	78	7.7	脳血管疾患	77	7.6	不慮の事故	37	3.7
８０～８４	悪性新生物	504	29.9	心　疾　患	213	12.6	肺　　炎	174	10.3	脳血管疾患	137	8.1	不慮の事故	67	4.0
８５～８９	悪性新生物	430	21.2	肺　　炎	318	15.7	心　疾　患	315	15.5	脳血管疾患	206	10.2	老　　衰	81	4.0
９０～	心　疾　患	452	16.5	肺　　炎	437	15.9	老　　衰	399	14.6	悪性新生物	374	13.6	脳血管疾患	263	9.6

注　(1)　０歳については乳児死因簡単分類、それ以外については選択死因分類を使用した。
死因順位は死亡数の多いものからとし、死亡数が同数の場合は同一順位に死因名を列記した。
(2)　割合については、各年齢階級別の死亡総数に対する割合である。

5　死因別にみた死亡

死因順位は、明治から昭和の戦前にかけて上位を占めていた結核、肺炎及び気管支炎、胃腸炎などの感染性疾患が、戦後は次第に後退し、代わって生活習慣が深く関わる疾病と不慮の事故が上位を占めるようになってきた。

平成 24 年以降は、1 位悪性新生物、2 位心疾患、3 位肺炎、4 位脳血管疾患、5 位老衰となっている。

表6　死因順位の年次推移（人口10万対）

佐賀県

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
昭和 25 年	結核	140.2	脳血管疾患	107.9	悪性新生物	91.8	老衰	77.2	心疾患	69.7
30	脳血管疾患	134.5	悪性新生物	98.5	老衰	74.5	心疾患	63.6	結核	61.0
35	脳血管疾患	166.6	悪性新生物	125.5	心疾患	71.3	老衰	67.8	肺炎及び気管支炎	50.3
40	脳血管疾患	194.1	悪性新生物	140.3	心疾患	81.3	老衰	59.6	不慮の事故及び有害作用	52.0
45	脳血管疾患	199.4	悪性新生物	149.9	心疾患	110.3	不慮の事故及び有害作用	53.3	老衰	48.5
50	脳血管疾患	183.7	悪性新生物	163.5	心疾患	120.8	不慮の事故及び有害作用	40.2	肺炎及び気管支炎	36.7
55	悪性新生物	178.9	脳血管疾患	162.0	心疾患	141.0	肺炎及び気管支炎	41.0	老衰	34.1
60	悪性新生物	192.2	心疾患	138.2	脳血管疾患	130.8	肺炎及び気管支炎	57.1	不慮の事故及び有害作用	30.1
平成 2	悪性新生物	227.3	心疾患	157.8	脳血管疾患	118.2	肺炎及び気管支炎	73.7	不慮の事故及び有害作用	38.1
7	悪性新生物	262.9	脳血管疾患	137.6	心疾患	127.5	肺炎	98.4	不慮の事故	39.3
12	悪性新生物	282.9	心疾患	125.8	脳血管疾患	119.7	肺炎	94.4	不慮の事故	39.7
17	悪性新生物	313.9	心疾患	145.1	脳血管疾患	115.8	肺炎	102.4	不慮の事故	40.3
22	悪性新生物	320.7	心疾患	162.0	肺炎	133.0	脳血管疾患	106.6	不慮の事故	38.8
24	悪性新生物	331.1	心疾患	176.5	肺炎	133.7	脳血管疾患	103.7	老衰	47.6
25	悪性新生物	329.9	心疾患	161.7	肺炎	137.6	脳血管疾患	105.3	老衰	51.7
26	悪性新生物	336.7	心疾患	166.9	肺炎	131.3	脳血管疾患	105.9	老衰	54.5
27	**悪性新生物**	**325.5**	**心疾患**	**152.1**	**肺炎**	**133.1**	**脳血管疾患**	**100.9**	**老衰**	**62.4**

6　主な死因

平成 27 年の主な死因について、前年と比較してみると表 7 のとおりである。

主な死因の死亡数では、「悪性新生物」、「心疾患」などが減少し、「肺炎」、「老衰」などは増加している。また、順位は 1 位～9 位は前年同様であるが、10 位が「大動脈瘤及び解離」から「肝疾患」になった。

表７　主な死因順位別死亡数・死亡率　（人口10万対）

佐賀県

死因順位(27年)	死因	死亡数		死亡率		死亡割合		全国（平成27年）		全国順位	
		平成27年	平成26年	平成27年	平成26年	平成27年	平成26年	死亡率	死亡割合	平成27年	平成26年
	全死因	**9 702**	9 732	**1170.4**	1171.1	**100.0**	100.0	**1029.7**	100.0	**21**	22
1	悪性新生物	**2 698**	2 798	**325.5**	336.7	**27.8**	28.8	**295.5**	28.7	**19**	12
2	心疾患	**1 261**	1 387	**152.1**	166.9	**13.0**	14.3	**156.5**	15.2	**37**	29
3	肺炎	**1 103**	1 091	**133.1**	131.3	**11.4**	11.2	**96.5**	9.4	**6**	8
4	脳血管疾患	**836**	880	**100.9**	105.9	**8.6**	9.0	**89.4**	8.7	**25**	22
5	老衰	**517**	453	**62.4**	54.5	**5.3**	4.7	**67.7**	6.6	**36**	37
6	不慮の事故	**328**	308	**39.6**	37.1	**3.4**	3.2	**30.6**	3.0	**16**	27
7	腎不全	**189**	174	**22.8**	20.9	**1.9**	1.8	**19.6**	1.9	**22**	28
8	慢性閉塞性肺疾患	**148**	146	**17.9**	17.6	**1.5**	1.5	**12.6**	1.2	**6**	9
9	自殺	**138**	141	**16.6**	17.0	**1.4**	1.4	**18.5**	1.8	**40**	46
10	肝疾患	**118**	99	**14.2**	11.9	**1.2**	1.0	**12.5**	1.2	**9**	31
	その他	**2 366**	2 255	**285.4**	271.4	**24.4**	23.2	**230.5**	22.4	**…**	…

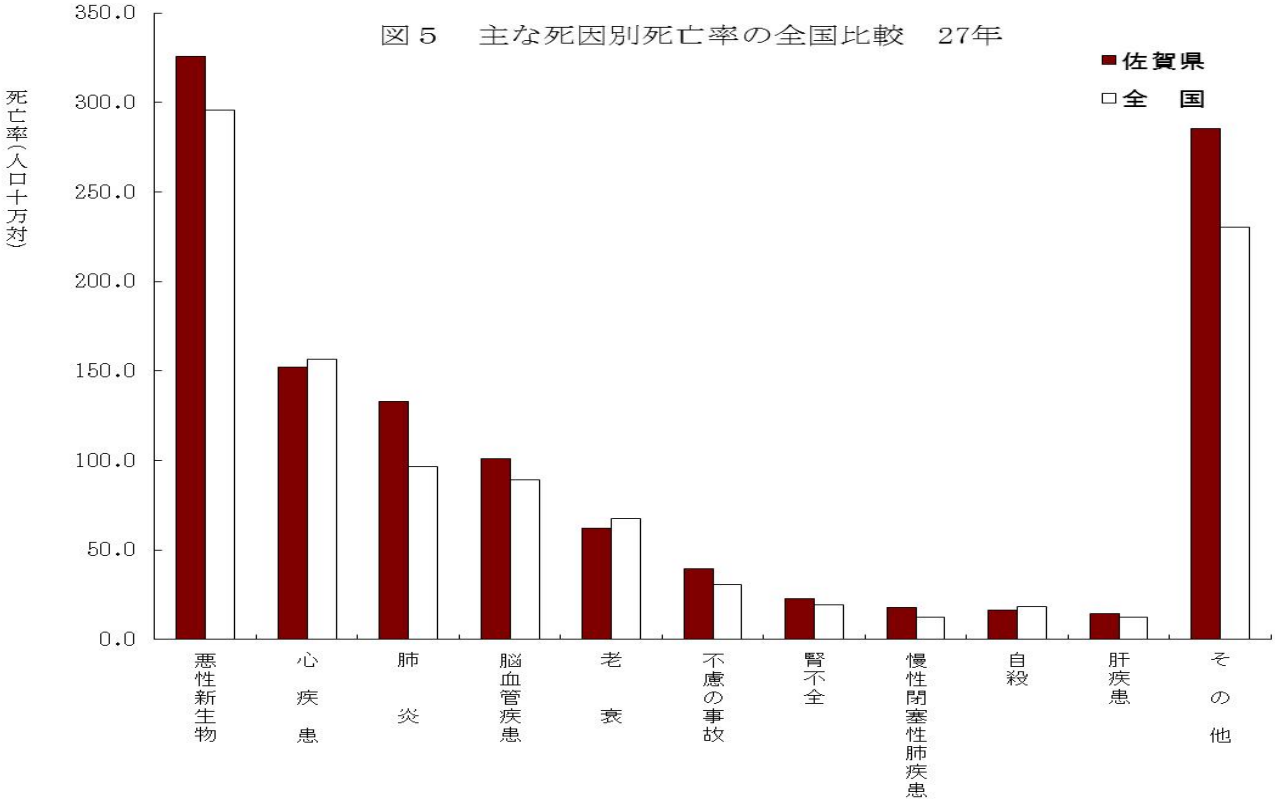
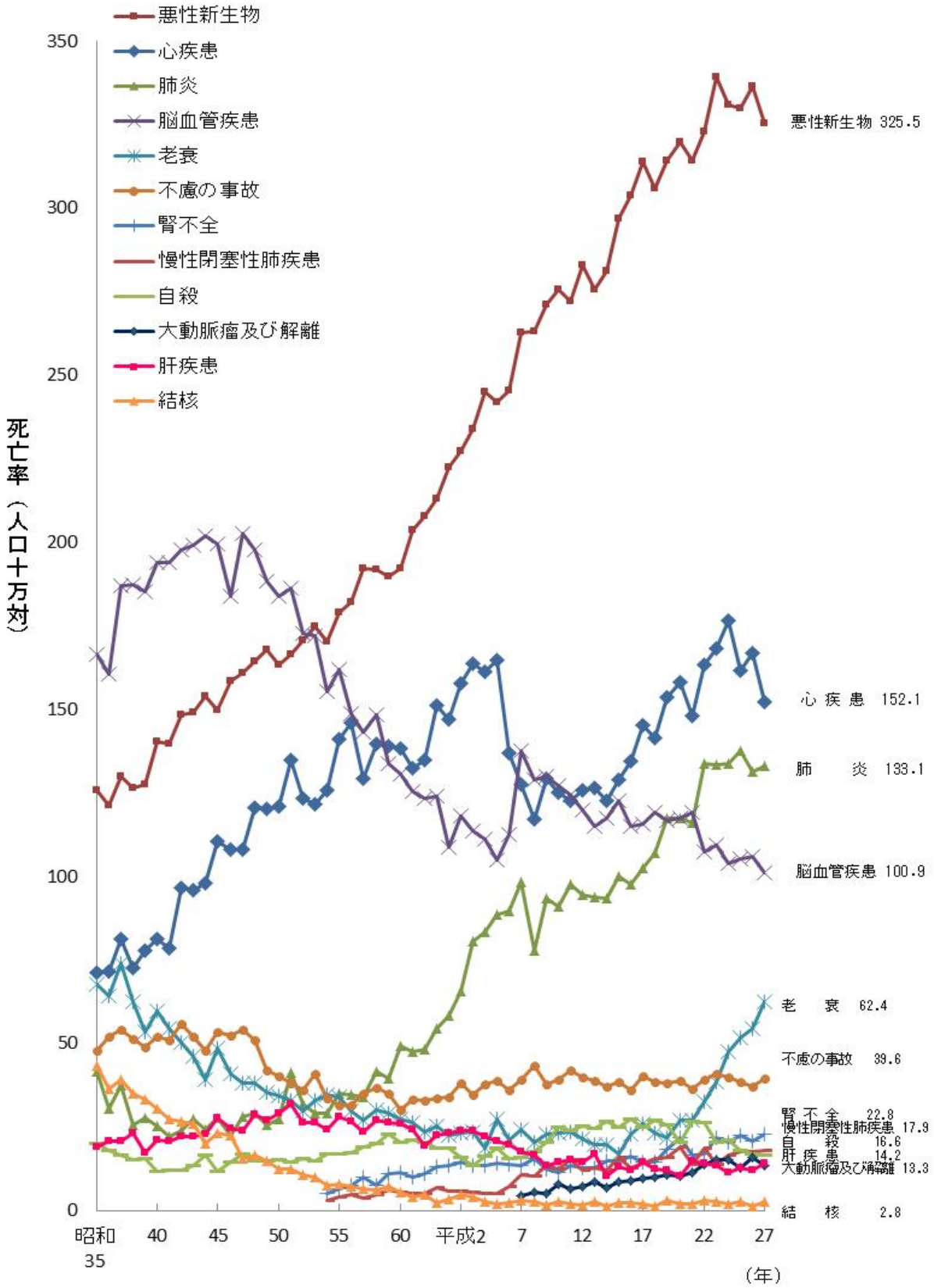


図６　主な死因別死亡率年次推移　（佐賀県）



（1）悪性新生物

悪性新生物は、昭和 53 年以降の 1 位は変わらない。図 6 にみられるように、死亡率がわずかに低下する年も散見されるものの、他の疾病と違って確実に上昇している。

年齢別では、主に 35 歳から 89 歳までの各年齢層において死亡順位の 1 位であり（表 5 参照）、総死亡に占める割合も、昭和 53 年には 22.2%だったが平成 27 年は 27.8%と増加している。

平成 27 年の死亡率は 325.5 で、前年の 336.7 を下回ったが、全国の 295.5 との差は大きい。全国順位は 19 位と長年にわたり上位に位置している。

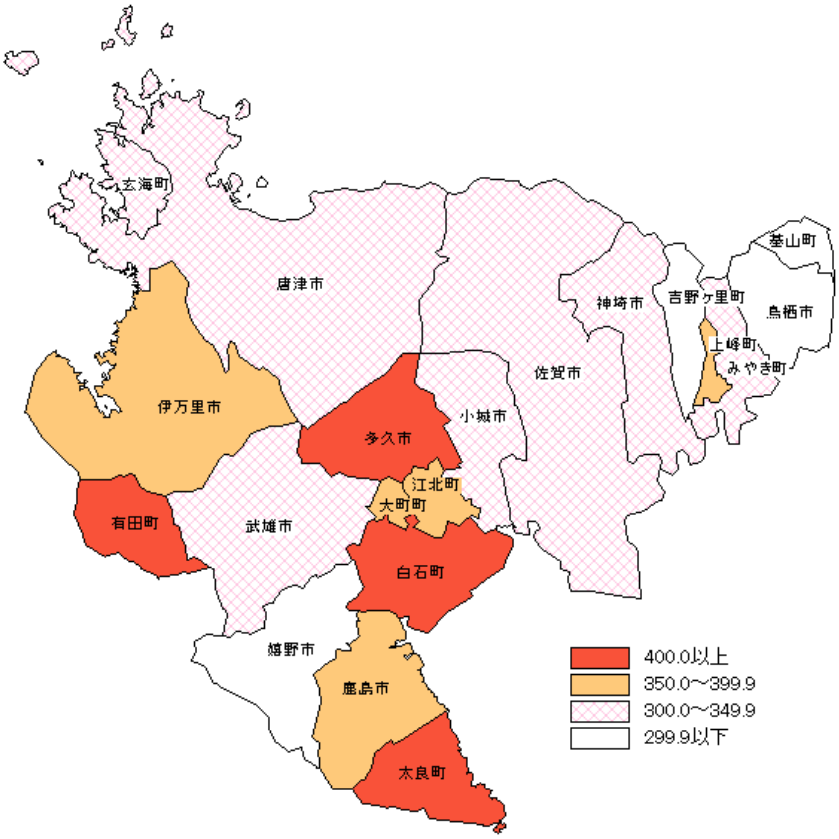
市町別死亡率を表 8、図 7 でみると、最高は太良町の 457.2 で、有田町 424.1、白石町 406.8 と続いている。最低は吉野ヶ里町の 226.2 で、次いで基山町の 241.0 となっている。

表８　市町別悪性新生物死亡率

平成27年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐　賀　県	**325.5**
太　良　町	457.2
有　田　町	424.1
白　石　町	406.8
多　久　市	406.5
上　峰　町	399.4
大　町　町	399.3
江　北　町	388.0
鹿　島　市	368.5
伊万里市	351.8
唐　津　市	332.7
武　雄　市	331.2
小　城　市	326.4
神　埼　市	325.2
玄　海　町	322.1
みやき町	313.6
佐　賀　市	306.9
嬉　野　市	297.5
鳥　栖　市	254.9
基　山　町	241.0
吉野ヶ里町	226.2

図７　市町別悪性新生物死亡率（平成 27 年）



悪性新生物の部位別死亡は表 9、図 8 のとおりである。

男女別にみると、男性の 1 位は「気管、気管支及び肺」、2 位は「胃」、3 位は「肝及び肝内胆管」であり、女性の 1 位は「気管、気管支及び肺」、2 位は「肝及び肝内胆管」で 3 位は「結腸」となっている。

全国と比べると高率の部位が多いが、中でも「肝及び肝内胆管」は男性 1.4 倍、女性 1.9 倍と高い死亡率で、昭和 55 年以降は全国 1 位または 2 位で推移している。

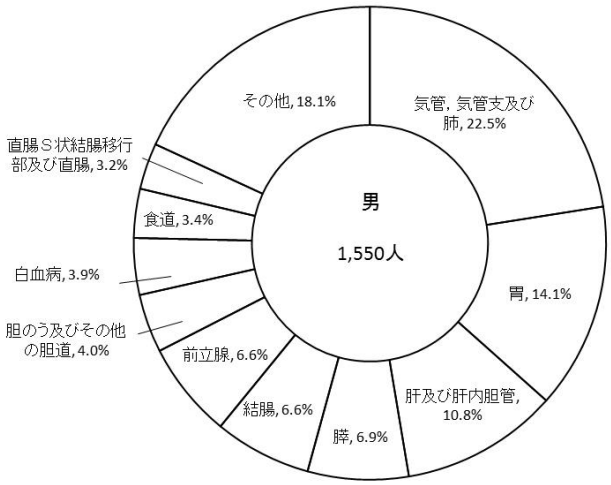
表９　　悪性新生物の部位別死亡数･率・割合

平成27年

	死亡数			死亡率(人口10万対)						死亡割合（%）				全国順位
				佐賀県			全　国			佐賀県		全　国		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	男	女	男	女	(総数)
総数	2 698	1 550	1 148	325.5	395.8	262.5	295.5	359.7	234.6	100.0	100.0	100.0	100.0	19
食道	67	52	15	8.1	13.3	3.4	9.4	16.0	3.1	3.4	1.3	4.5	1.3	36
胃	344	218	126	41.5	55.7	28.8	37.2	50.5	24.7	14.1	11.0	14.0	10.5	18
結腸	230	103	127	27.7	26.3	29.0	27.4	28.0	26.9	6.6	11.1	7.8	11.5	24
直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸	92	49	43	11.1	12.5	9.8	12.3	16.0	8.7	3.2	3.7	4.4	3.7	40
肝及び肝内胆管	295	167	128	35.6	42.6	29.3	23.1	31.1	15.4	10.8	11.1	8.7	6.6	1
胆のう及びその他の胆道	123	62	61	14.8	15.8	13.9	14.5	14.9	14.1	4.0	5.3	4.1	6.0	33
膵	229	107	122	27.6	27.3	27.9	25.4	26.5	24.4	6.9	10.6	7.4	10.4	23
気管，気管支及び肺	494	349	145	59.6	89.1	33.2	59.4	87.2	32.9	22.5	12.6	24.2	14.0	31
乳房	93	-	93	11.2	-	21.3	10.9	0.2	21.1	-	8.1	0.1	9.0	18
子宮	43	・	43	9.8	・	9.8	10.0	・	10.0	・	3.7	・	4.3	26
前立腺	102	102	・	26.0	26.0	・	18.6	18.6	・	6.6	・	5.2	・	5
白血病	85	60	25	10.3	15.3	5.7	6.9	8.4	5.5	3.9	2.2	2.3	2.3	7
その他	501	281	220	60.4	71.8	50.3	54.9	62.4	47.8	18.1	19.2	17.4	20.4	…
（再掲）大腸	322	152	170	38.8	38.8	38.9	39.7	43.9	35.6	9.8	14.8	12.2	15.2	33

注：１）「大腸」は「結腸」と「直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸」を示す。
　　２）「乳房」及び「子宮」の全国順位は、女の順位である。
　　３）「前立腺」の全国順位は、男の順位である。

図８　悪性新生物の部位別死亡割合　（平成 27 年）　　佐賀県



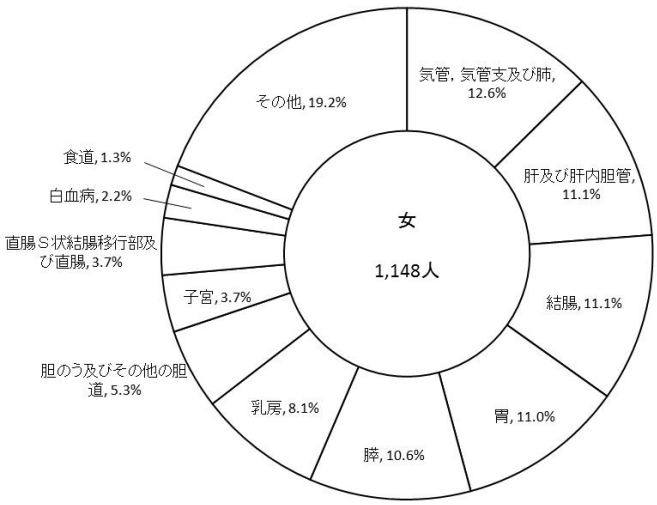


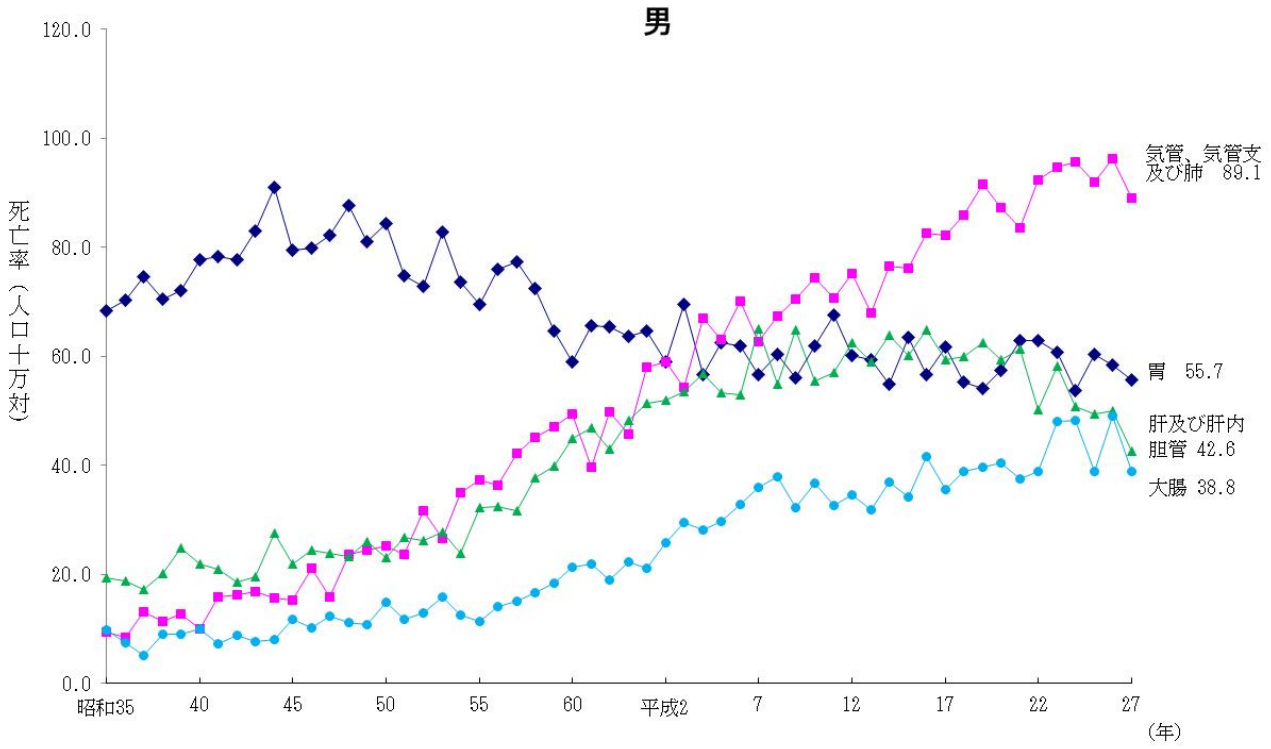
表10　部位別にみた悪性新生物死亡数･死亡率の年次推移

佐賀県

年次	総数	食道	胃	結腸	移行部及び直腸S状結腸	肝及び肝内胆管	その他の胆道胆のう及び	膵	気管・気管支及び肺	乳房	子宮	前立腺	白血病	その他	(再掲)大腸
昭和 35 年	1 183	33	524	27	43	152	…	23	58	15	85	…	31	192	70
40	1 223	19	521	30	36	165	…	38	66	24	75	…	27	222	66
45	1 255	42	526	36	45	134	…	53	103	25	59	…	45	187	81
50	1 367	33	529	45	63	147	…	49	135	14	68	…	30	254	108
55	1 546	34	474	73	49	190	…	76	217	30	63	…	31	309	122
60	1 712	34	425	102	73	273	…	85	258	30	35	…	48	349	175
平成 2	1 992	35	391	147	77	325	…	127	315	50	46	…	66	413	224
7	2 320	63	404	197	82	374	135	135	373	43	51	51	73	390	279
12	2 473	64	385	175	87	387	143	152	423	64	42	75	78	473	262
17	2 709	73	400	199	88	405	147	203	467	78	31	87	92	439	287
22	2 714	73	391	219	92	348	116	190	510	96	55	98	79	447	311
24	2 781	67	345	266	97	331	151	216	499	96	35	113	79	486	363
25	2 758	67	374	238	84	296	145	217	516	90	54	89	93	495	322
26	2 798	64	367	261	110	298	142	205	516	111	61	96	63	504	371
27	**2 698**	**67**	**344**	**230**	**92**	**295**	**123**	**229**	**494**	**93**	**43**	**102**	**85**	**501**	**322**
死　亡　率　（人口10万対）															
昭和 35 年	125.5	3.5	55.6	2.9	4.6	16.1	…	2.4	6.2	1.6	17.2	…	3.3	20.4	7.4
40	140.3	2.2	59.8	3.4	4.1	18.9	…	4.4	7.6	2.8	16.3	…	3.1	25.5	7.6
45	149.9	5.0	62.8	4.3	5.4	16.0	…	6.3	12.3	3.0	13.3	…	5.4	22.3	9.7
50	163.5	3.9	63.3	5.4	7.5	17.6	…	5.9	16.1	1.7	15.4	…	3.6	30.4	12.9
55	178.9	3.9	54.9	8.4	5.7	22.0	…	8.8	25.1	3.5	13.9	…	3.6	35.8	14.1
60	192.2	3.8	47.7	11.5	8.2	30.7	…	9.5	29.0	3.4	7.5	…	5.4	39.2	19.6
平成 2	227.3	4.0	44.6	16.8	8.8	37.1	…	14.5	35.9	5.7	9.9	…	7.5	47.1	25.6
7	262.9	7.1	45.8	22.3	9.3	42.4	15.3	15.3	42.3	4.9	11.0	12.2	8.3	44.2	31.6
12	282.9	7.3	44.0	20.0	10.0	44.3	16.4	17.4	48.4	7.3	9.1	18.1	8.9	54.1	30.0
17	313.9	8.5	46.3	23.1	10.2	46.9	17.0	23.5	54.1	9.0	6.8	21.4	10.7	50.9	33.3
22	320.7	8.6	46.2	25.9	10.9	41.1	13.7	22.5	60.3	11.3	12.3	24.6	9.3	52.8	36.8
24	331.1	8.0	41.1	31.7	11.5	39.4	18.0	25.7	59.4	11.4	7.9	28.5	9.4	57.9	43.2
25	329.9	8.0	44.7	28.5	10.0	35.4	17.3	26.0	61.7	10.8	12.2	22.6	11.1	59.2	38.5
26	336.7	7.7	44.2	31.4	13.2	35.9	17.1	24.7	62.1	13.4	13.9	24.5	7.6	60.6	44.6
27	**325.5**	**8.1**	**41.5**	**27.7**	**11.1**	**35.6**	**14.8**	**27.6**	**59.6**	**11.2**	**9.8**	**26.0**	**10.3**	**60.4**	**38.8**

注：1)　死因名・死因内容はＩＣＤ－10による。
　　2)　「子宮」は女性人口10万対の死亡率である。
　　3)　「前立腺」は男性人口10万対の死亡率である。

図９　悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移（佐賀県）



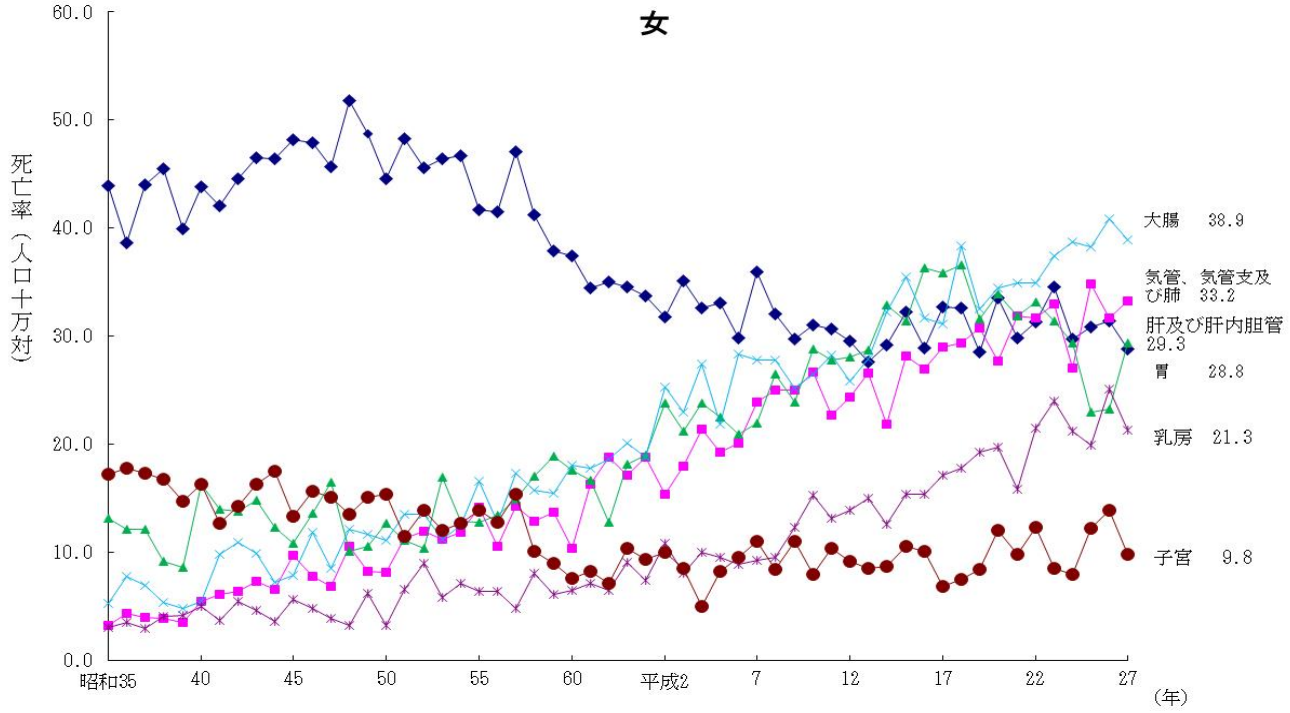


表11　悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

	胃		気管、気管支及び肺		肝及び肝内胆管		大腸		乳房		子宮	
総数												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	524	55.6	58	6.2	152	16.1	70	7.4	15	1.6	85	17.2
40	521	59.8	66	7.6	165	18.9	66	7.6	24	2.8	75	16.3
45	526	62.8	103	12.3	134	16.0	81	9.7	25	3.0	59	13.3
50	529	63.3	135	16.1	147	17.6	108	12.9	14	1.7	68	15.4
55	474	54.9	217	25.1	190	22.0	122	14.1	30	3.5	63	13.9
60	425	47.7	258	29.0	273	30.7	175	19.6	30	3.4	35	7.5
平成 2	391	44.6	315	35.9	325	37.1	224	25.6	50	5.7	46	9.9
7	404	45.8	373	42.3	374	42.4	279	31.6	43	4.9	51	11.0
12	385	44.0	423	48.4	387	44.3	262	30.0	64	7.3	42	9.1
17	400	46.3	467	54.1	405	46.9	287	33.3	78	9.0	31	6.8
22	391	46.2	510	60.3	348	41.1	311	36.8	96	11.3	55	12.3
24	345	41.1	499	59.4	331	39.4	363	43.2	96	11.4	35	7.9
25	374	44.7	516	61.7	296	35.4	322	38.5	90	10.8	54	12.2
26	367	44.2	516	62.1	298	35.9	371	44.6	111	13.4	61	13.9
27	**344**	**41.5**	**494**	**59.6**	**295**	**35.6**	**322**	**38.8**	**93**	**11.2**	**43**	**9.8**
男												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	307	68.4	42	9.4	87	19.4	44	9.8	-	-	・	・
40	319	77.6	41	10.0	90	21.9	41	10.0	1	0.2	・	・
45	312	79.4	60	15.3	86	21.9	46	11.7	-	-	・	・
50	332	84.3	99	25.1	91	23.1	59	15.0	-	-	・	・
55	285	69.5	153	37.3	132	32.2	47	11.5	1	0.2	・	・
60	251	59.1	210	49.4	191	44.9	91	21.4	-	-	・	・
平成 2	244	59.0	244	59.0	215	51.9	107	25.9	-	-	・	・
7	237	56.7	262	62.7	272	65.1	150	35.9	-	-	・	・
12	249	60.2	311	75.2	258	62.4	143	34.6	-	-	・	・
17	251	61.7	335	82.3	242	59.4	145	35.6	-	-	・	・
22	251	62.9	368	92.3	200	50.2	155	38.9	-	-	・	・
24	213	53.8	379	95.7	201	50.8	191	48.2	2	0.5	・	・
25	238	60.4	362	91.9	195	49.5	153	38.8	2	0.5	・	・
26	229	58.4	377	96.2	196	50.0	192	49.0	1	0.3	・	・
27	**218**	**55.7**	**349**	**89.1**	**167**	**42.6**	**152**	**38.8**	**-**	**-**	**・**	**・**
女												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	217	43.9	16	3.2	65	13.2	26	5.3	15	3.0	85	17.2
40	202	43.8	25	5.4	75	16.3	25	5.4	23	5.0	75	16.3
45	214	48.2	43	9.7	48	10.8	35	7.9	25	5.6	59	13.3
50	197	44.5	36	8.1	56	12.7	49	11.1	14	3.2	68	15.4
55	189	41.6	64	14.1	58	12.8	75	16.5	29	6.4	63	13.9
60	174	37.4	48	10.3	82	17.6	84	18.0	30	6.4	35	7.5
平成 2	147	31.8	71	15.4	110	23.8	117	25.3	50	10.8	46	9.9
7	167	35.9	111	23.9	102	22.0	129	27.8	43	9.3	51	11.0
12	136	29.5	112	24.3	129	28.0	119	25.8	64	13.9	42	9.1
17	149	32.7	132	29.0	163	35.8	142	31.1	78	17.1	31	6.8
22	140	31.3	142	31.7	148	33.1	156	34.9	96	21.5	55	12.3
24	132	29.7	120	27.0	130	29.3	172	38.7	94	21.2	35	7.9
25	136	30.8	154	34.8	101	22.9	169	38.2	88	19.9	54	12.2
26	138	31.4	139	31.7	102	23.2	179	40.8	110	25.1	61	13.9
27	**126**	**28.8**	**145**	**33.2**	**128**	**29.3**	**170**	**38.9**	**93**	**21.3**	**43**	**9.8**

注「子宮」の死亡率は女子人口10万対の率である。

（2）心　疾　患

心疾患の死因順位は、昭和 35 年から 58 年までは第 3 位で、59 年に脳血管疾患に代わって第 2 位となり、平成 7 年から第 3 位と順位を下げたが、12 年からは再び第 2 位となり、以降継続してその順位を保っている。

総死亡に占める割合は、昭和 35 年は 8.3%、50 年は 15.0%となり、この 10 年間は 15%前後で推移しており、平成 27 年は 13.0%となっている。

死亡率は、昭和 35 年で 71.3、45 年で 110.3、48 年で 120.6 と、多少の起伏を伴いながら上昇し、平成 5 年の 164.7 をピークに 6 年から 8 年にかけて大幅に減少したが、その後はまた上昇傾向にあり、平成 24 年には 176.5 と昭和 35 年以降で最も高い率となり、平成 27 年は 152.1 となった。全国は 156.5 で、全国順位は前年の 29 位から 37 位となった。

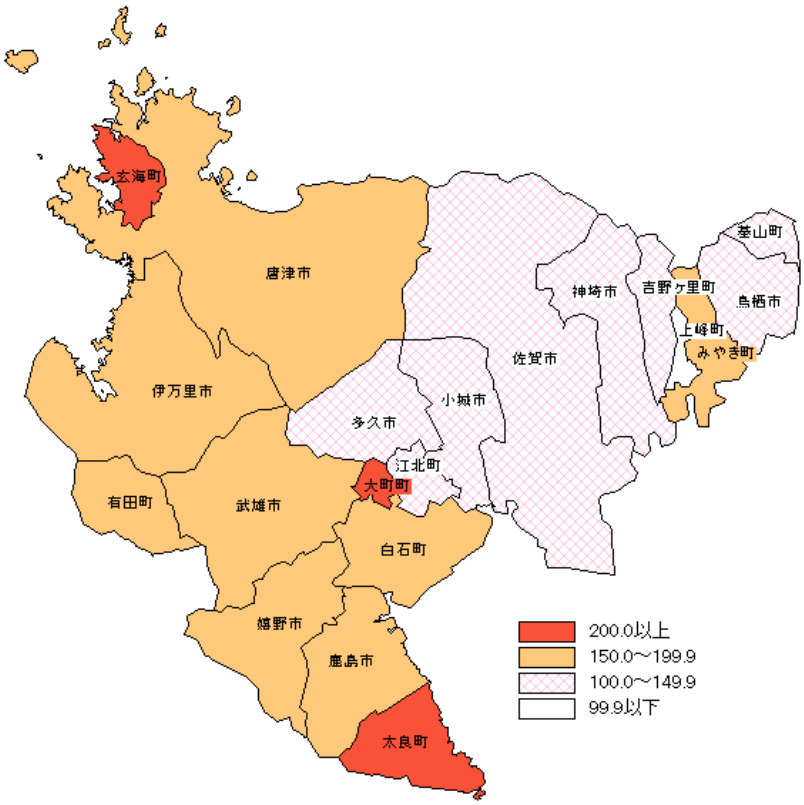
市町別心疾患死亡率を表 12、図 10 でみると、最高は玄海町の 237.4、次いで大町町の 236.7、最低は上峰町の 75.6、次いで鳥栖市の 105.3 となっている。

表12 市町別心疾患死亡率

平成27年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐 賀 県	**152.1**
玄 海 町	237.4
大 町 町	236.7
太 良 町	205.7
伊万里市	191.4
唐 津 市	189.7
武 雄 市	184.0
鹿 島 市	169.0
嬉 野 市	169.0
白 石 町	167.8
みやき町	166.7
有 田 町	154.7
江 北 町	146.8
吉野ヶ里町	140.6
基 山 町	137.7
多 久 市	137.2
佐 賀 市	132.6
小 城 市	124.7
神 埼 市	122.8
鳥 栖 市	105.3
上 峰 町	75.6

図 10　市町別心疾患死亡率（平成 27 年）



（３）脳血管疾患

脳血管疾患は、昭和 28 年以降第 1 位であったが、53 年に悪性新生物に代わって第 2 位、59 年からは心疾患に代わり第 3 位となった。その後、平成 7 年から 11 年には再び第 2 位となったが、これは、平成 7 年 1 月からのＩＣＤ－10 の導入による原死因選択ルールの明確化等によるもので、死亡傾向が急激に変化したものとは考えにくい。

その後、平成 12 年から平成 21 年までは 19 年の第 4 位を除き第 3 位となり、平成 22 年以降継続して第 4 位となっている。

総死亡数に占める割合は、昭和 47 年が 24.5%とピークであったが、平成 27 年は 8.6%と過去最低となった。

死亡率は、戦後年々漸増してきたが、昭和 47 年の 202.8 以降減少し、平成 5 年の 104.9 が最低となった。その後増減を繰り返しながら推移し、平成 27 年は 100.9（全国順位 25 位）で平成 24 年の 103.7(全国順位で 31 位)を抜き戦後最低となったが、依然として全国の 89.4 を上回っている。

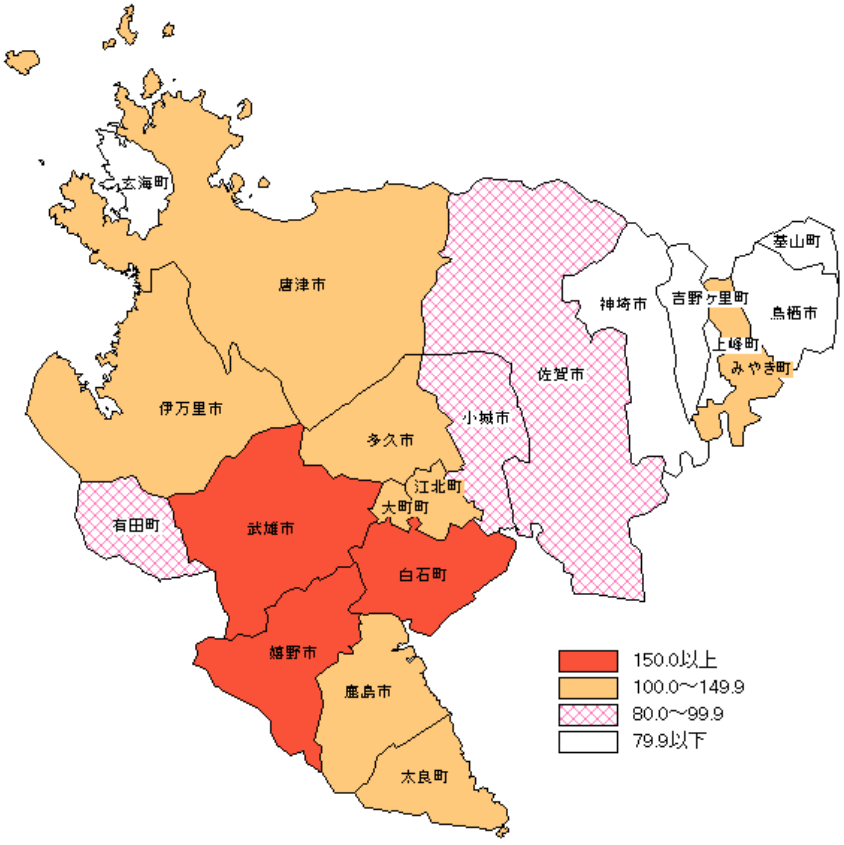
市町別脳血管疾患死亡率を表 13、図 11 でみると、最高は白石町の 167.8、次いで嬉野市の 165.3 で、最低は上峰町の 43.2、次いで吉野ヶ里町の 48.9 となった。

表13 市町別脳血管疾患死亡率

平成27年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐 賀 県	**100.9**
白 石 町	167.8
嬉 野 市	165.3
武 雄 市	157.4
大 町 町	147.9
伊万里市	142.2
鹿 島 市	131.9
みやき町	111.1
多 久 市	106.7
江 北 町	104.9
唐 津 市	103.8
太 良 町	102.9
有 田 町	99.8
小 城 市	86.1
佐 賀 市	83.7
神 埼 市	75.6
玄 海 町	67.8
鳥 栖 市	66.5
基 山 町	51.6
吉野ヶ里町	48.9
上 峰 町	43.2

図 11　市町別脳血管疾患死亡率（平成 27 年）



（4）不慮の事故

死因順序は、昭和 56 年以降第 5 位が続いていたが、平成 24 年に第 6 位となり、以降継続してその順位を保っている。

死亡率は、多少の上下はあるものの昭和 50 年代からほぼ横ばい状態にあり、平成 27 年は 39.6 で全国 16 位であった。

不慮の事故の中で最も多いのは不慮の窒息（死亡率 9.7）で、死亡者の 85.0%を 65 歳以上の高齢者で占めている。

次に多いのは転倒・転落で（死亡率 8.1）で、こちらも死亡者の 91.0%を 65 歳以上の高齢者で占めている。

なお、前年まで不慮の事故の中の 2 位であった交通事故（死亡率 7.4）は減少し、傷害発生地別の路上交通事故の死亡率も 7.1 と、全国の 4.0 との差が小さくなっている。

表14　路上交通事故死亡率（人口10万対）及び自動車保有台数の年次推移

年次	路上交通事故死亡率(注)		自動車保有台数(各年３月末)	
	佐　賀　県	全　　国	佐　賀　県	全　　国
昭和 30 年	4.0	6.7	7 699	1 311 781
35	12.9	14.4	16 990	2 775 189
40	22.7	16.5	40 831	6 984 864
45	27.0	20.9	126 891	16 528 521
50	15.9	12.8	218 267	27 870 475
55	10.5	10.1	311 222	37 333 250
60	11.1	10.5	384 837	46 009 247
平成 2 年	16.4	11.9	459 958	57 993 866
7	16.9	11.4	540 614	68 103 696
12	14.6	9.5	595 127	74 582 612
17	9.8	7.1	632 469	78 278 880
22	7.6	5.1	648 148	78 693 495
24	7.3	4.6	653 868	79 112 584
25	7.3	4.3	659 792	79 625 203
26	7.9	4.1	665 441	80 272 571
27	**7.1**	**4.0**	**670 757**	**80 670 393**

注：路上交通事故の発生地別による死亡率である。
　　ただし、平成2年以前は自動車事故の死亡率である。

第3章　乳 児 死 亡

1　乳児死亡の動き

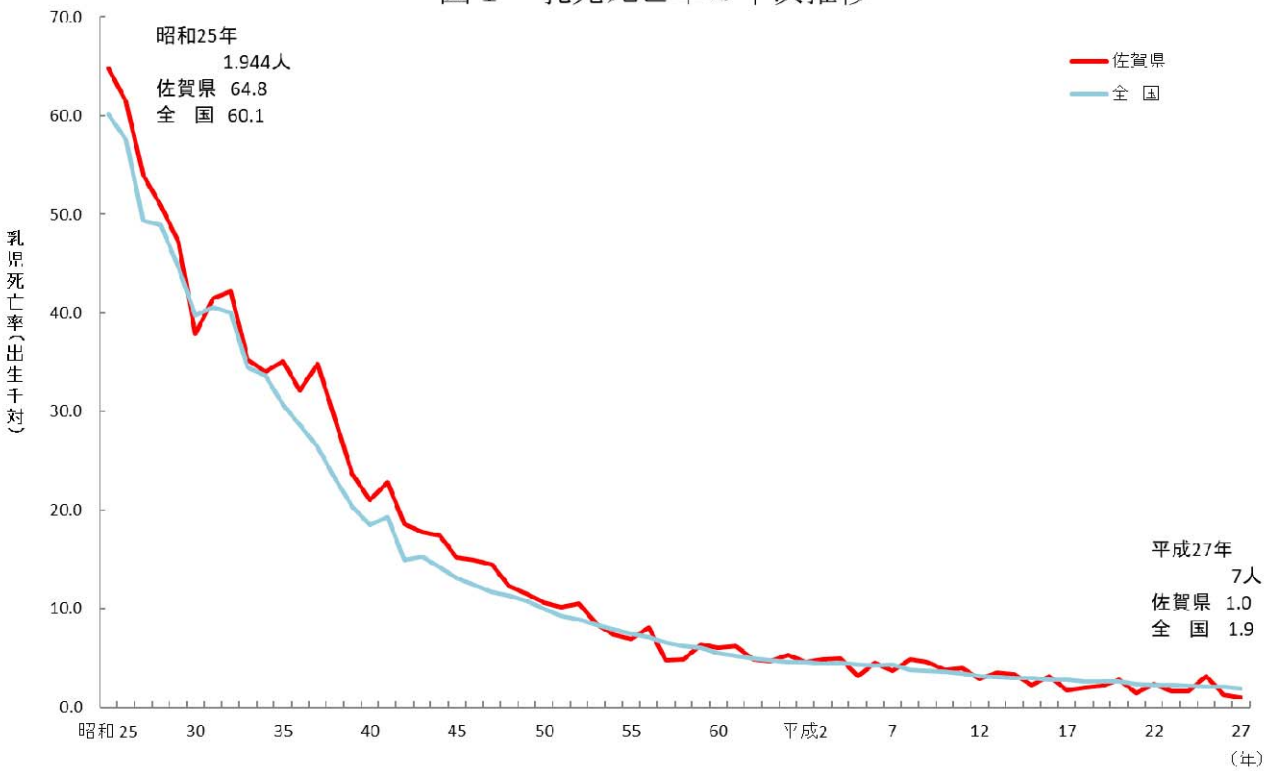
平成 27 年の乳児死亡数は 7 人で前年の 9 人を下回り、乳児死亡率（出生千対）は 1.0 となった。

生後 1 年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生数千に対する乳児死亡率で観察する。死亡統計で特にこれを取り上げて観察の対象とするのは、乳児の死亡は妊娠中の母体の保護と出生後の乳児の適切な保育によって、比較的容易に改善が図られるものであり、これらの条件は母親と乳児を取り巻く生活環境に左右される。乳児死亡率は、このような理由と算出の容易さから、公衆衛生の指標としてしばしば使われている。

本県の乳児死亡率の推移を図 1 でみると、戦後は医療の進歩や公衆衛生の向上などにより急速な低下傾向をたどり、近年は昭和 25 年当時と比べると 1/60 以下に激減している。

乳児死亡率を全国と比べると、戦後長期間にわたり上回って推移していたが、昭和 54 年以降は下回っている年も多くなっている。平成 25 年に全国順位 3 位と上昇したものの、平成 27 年は全国 46 位となった。

図１　乳児死亡率の年次推移



2　生存期間と乳児死亡

平成 27 年の乳児死亡率を生存期間によって分けてみると表 1、図 2 のとおりである。

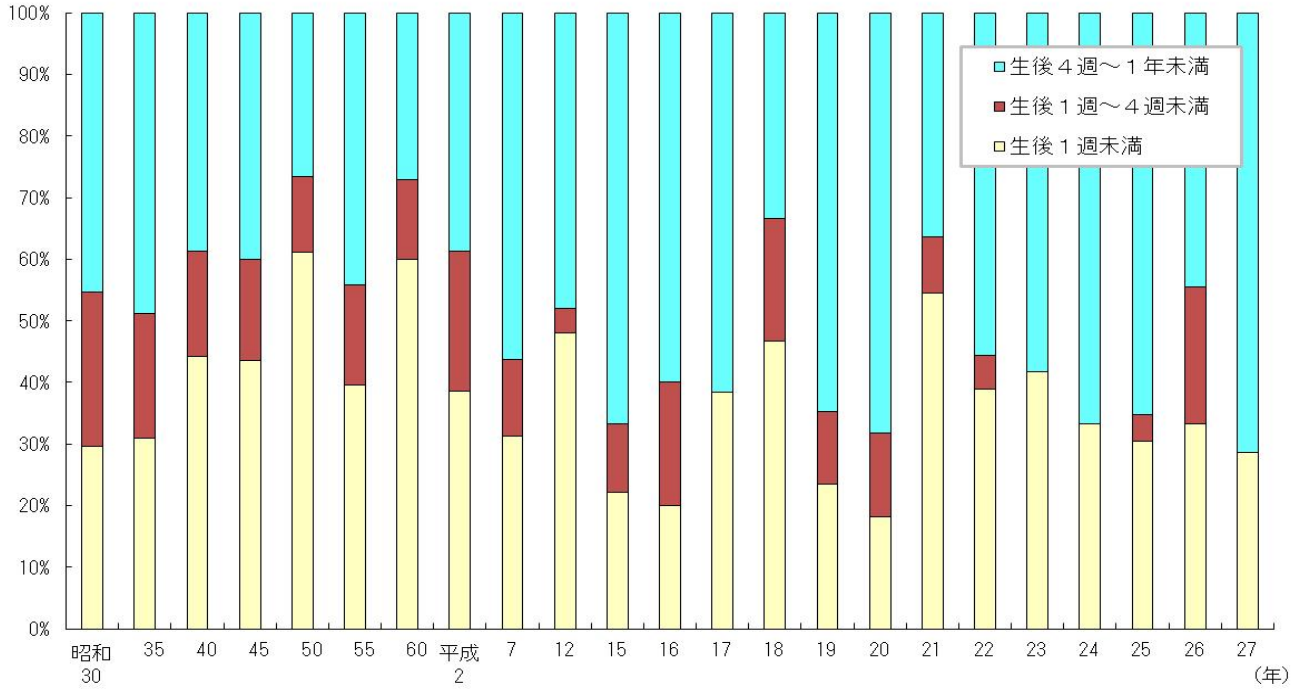
乳児死亡 7 人のうち 4 週未満のいわゆる新生児死亡が 2 人で、全乳児死亡の 28.6%を占めており、2 人ともに生後 1 週未満の早期新生児死亡であった。なお、平成 27 年は生後 1 日（24 時間）未満の死亡はなかった。

表１　生存期間別・年次別乳児死亡率(出生千対)

佐賀県

年　次	総　数	４週未満	（再掲） 1週未満	1日未満	４週～３ヶ月未満	３ヶ月～６ヶ月未満	６ヶ月～９ヶ月未満	９ヶ月～１年未満
昭和 30 年	37.9	20.7	11.3	2.6	7.9	5.1	2.4	1.9
35	35.1	18.0	10.9	2.1	7.0	5.0	3.1	2.0
40	21.0	12.9	9.3	1.9	2.8	2.3	1.7	1.3
45	15.2	9.1	6.6	2.4	2.2	1.4	1.3	1.2
50	10.6	7.8	6.5	2.1	0.8	0.9	0.7	0.5
55	6.8	3.9	2.7	0.8	1.3	0.8	0.4	0.6
60	6.0	4.4	3.6	1.4	0.4	0.4	0.3	0.5
平成 2 年	4.6	2.8	1.8	0.8	0.5	0.7	0.2	0.3
7	3.7	1.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.5	0.1
12	2.9	1.5	1.4	0.7	0.8	0.2	0.2	0.1
17	1.7	0.7	0.7	0.4	0.4	0.1	0.3	0.3
21	1.5	0.9	0.8	0.7	0.0	0.4	0.0	0.1
22	2.4	1.0	0.9	0.5	0.3	0.4	0.1	0.5
23	1.6	0.7	0.7	0.1	0.1	0.3	0.1	0.4
24	1.6	0.5	0.5	0.3	0.3	0.1	0.5	0.1
25	3.2	1.1	1.0	0.8	0.8	0.7	0.4	0.1
26	1.3	0.7	0.4	0.4	0.1	0.1	0.3	-
27	**1.0**	**0.3**	**0.3**	**-**	**0.1**	**0.6**	**-**	**-**
割合(27)	100.0	28.6	28.6	-	14.3	57.1	-	-

図２　生存期間別・年次別乳児死亡率　（佐賀県）

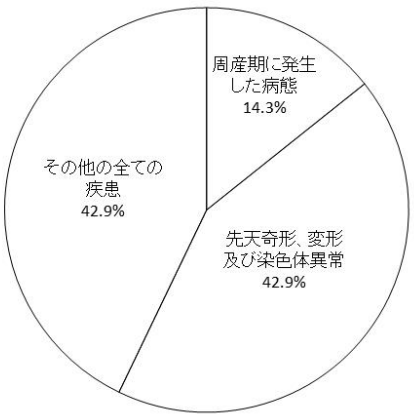


３　乳児死亡の原因

乳児死亡の原因は、先天的なものと後天的なものに大きく分けられる。

平成 27 年について死因別割合をみると図 3 のとおりで、周産期に発生した病態が 14.3%、先天的奇形、変形及び染色体異常が 42.9%、その他の全ての疾患が 42.9%となっている。

図３　乳児死亡の原因別割合　平成27年（佐賀県）



第４章　死　　産

１　死産の動き

平成 27 年の死産数は 163 胎で前年の 162 胎より増加し、死産率（出産千対）は、22.6 で前年の 22.1 を上回った。

自然死産率は 11.3 で全国の 10.6 を上回り、人工死産率は 11.2 で全国 11.4 を下回った。

死産率の年次推移を図 1 でみると、自然死産は昭和 41 年をピークにその後は低下を続け、人工死産も昭和 28 年をピークに多少の起伏はあるものの低下傾向にある。なお、昭和 58 年から平成 26 年までは人口死産率が高くなっていたが、平成 27 年は自然死産率が高くなった。

図１　自然－人工別死産率の年次推移　佐賀県

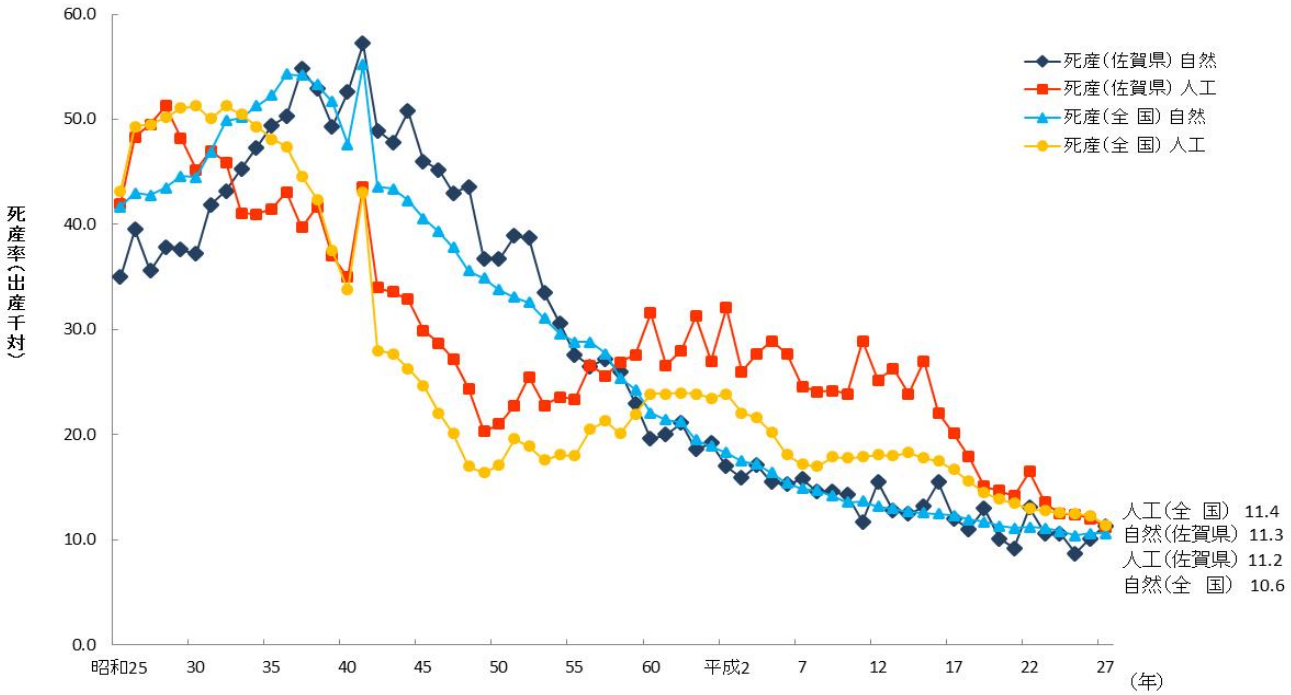


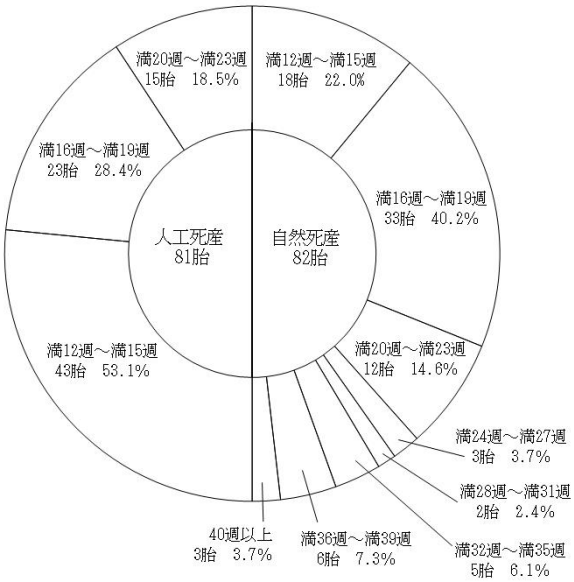
表 1 自然 －人工別死産数と死産率の年次推移　　佐賀県

年次	総数		自然死産		人工死産		全国死産率	
	実数	死産率	実数	死産率	実数	死産率	自然	人工
昭和 25 年	2 501	77.0	1 136	35.0	1 365	42.0	41.7	43.2
30	2 001	82.5	903	37.2	1 098	45.2	44.5	51.3
35	1 729	90.9	940	49.4	789	41.5	52.3	48.1
40	1 386	87.6	832	52.6	554	35.0	47.6	33.8
45	1 083	75.9	656	46.0	427	29.9	40.6	24.7
50	801	57.7	509	36.7	292	21.0	33.8	17.1
55	670	51.0	363	27.6	307	23.4	28.8	18.0
58	669	52.9	329	26.0	340	26.9	25.4	20.1
60	632	51.2	242	19.6	390	31.6	22.1	23.9
平成 2 年	494	49.2	171	17.0	323	32.1	18.3	23.9
7	368	40.5	144	15.8	224	24.6	14.9	17.2
12	371	40.7	141	15.5	230	25.2	13.2	18.1
17	249	32.1	93	12.0	156	20.1	12.3	16.7
18	228	29.0	87	11.0	141	17.9	11.9	15.6
19	223	28.1	103	13.0	120	15.1	11.7	14.5
20	199	24.8	81	10.1	118	14.7	11.3	13.9
21	180	23.4	71	9.2	109	14.2	11.1	13.5
22	233	29.6	103	13.1	130	16.5	11.2	13.0
23	189	24.2	83	10.6	106	13.6	11.1	12.8
24	176	23.1	81	10.6	95	12.5	10.8	12.6
25	157	21.1	65	8.7	92	12.4	10.4	12.5
26	162	22.1	74	10.1	88	12.0	10.6	12.3
27	**163**	**22.6**	**82**	**11.3**	**81**	**11.2**	**10.6**	**11.4**

2　妊娠期間別の死産

妊娠期間別について図 2 でみると、自然死産では満 12～15 週が 22.0%、満 16～19 週が 40.2%、満 20～23 週が 14.6%と、満 12～23 週までが全体の 76.8%を占めている。

図２ 妊娠期間別死産の割合（自然－人工） 27年（佐賀県）



3　人工妊娠中絶

死産統計には、母体保護法による妊娠満 12 週から満 21 週までの人工妊娠中絶を含んでいる。同法による人工妊娠中絶の件数は、昭和 25 年の 3,449 件から年々増加し、昭和 27 年に人工妊娠中絶の理由として「経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合」が認められてから急増した。しかし、昭和 31 年の 13,721 件をピークにその後は減少を続け、平成 27 年度には 1,416 件となっている。

妊娠週数別割合をみると表 2 のとおりで、母体の負担が比較的軽い満 11 週以内の妊娠初期に多く、長年全体の９割以上を占めている。

表 2 人工妊娠中絶数と率及び妊娠週数別割合の年次推移

佐賀県

年次	人工妊娠中絶数	人工妊娠中絶率		妊娠週数別割合 (%)			
		佐賀県	全国	満11週以内	満12～19週	満20週以後	不詳
昭和 25 年	3 449	14.4	15.0	68.0	22.6	9.2	0.2
30	12 769	52.1	50.2	89.0	7.7	3.3	0.0
35	8 221	34.3	42.0	92.1	5.3	2.6	0.0
40	6 998	30.4	30.2	94.5	3.3	2.2	—
45	6 041	26.4	24.8	95.5	3.0	1.5	0.0
50	4 918	22.4	22.1	96.6	2.2	1.2	—
55	4 795	22.2	19.5	94.2	4.3	1.5	—
60	4 711	22.3	17.8	93.3	4.6	2.1	—
平成 2	4 981	23.9	14.5	94.0	4.8	1.3	—
7	3 966	19.8	11.1	95.3	4.0	0.7	—
12	3 552	18.5	11.7	94.9	4.5	0.6	—
15年度	3 215	17.1	11.2	94.8	4.4	0.8	—
17	2 824	15.3	10.3	95.8	3.4	0.8	—
20	2 339	13.4	8.8	97.3	2.5	0.2	—
21	2 126	12.2	8.2	97.1	2.5	0.3	—
22	1 846	11.0	7.9	96.6	2.9	0.5	—
24	1 662	10.1	7.4	95.3	3.6	1.1	—
25	1 614	9.8	7.0	96.3	3.0	0.7	—
26	1 491	9.3	6.9	95.5	3.6	0.9	—
27	**1 416**	**8.9**	**6.8**	**96.4**	**3.1**	**0.5**	**—**

注：率は15歳以上50歳未満の女子人口千対である。
資料：厚生労働省「母体保護統計」、平成14年から「衛生行政報告例」。

第５章　周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満 22 週以後の死産に生後 1 週未満の早期新生児死亡を加えたものをいい、これは、周産期の児の死亡には母体の健康状態に強く作用されるという共通性が認められるためである。つまり、周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対）が高くなるほど母体の保護が不十分であるといえる。

平成 27 年の妊娠満 22 週以後の死産数は 22 胎、死亡率は 3.1 で前年の 3.2 を下回った。

一方、早期新生児死亡数は 2 人、死亡率は 0.3 で前年の 0.4 を下回った。

また、早期新生児死亡率を図 1、表 1 でみると、昭和 37 年の 13.4 をピークに年々低下し、57 年には 2.0 となった。その後も多少の起伏はあるものの低下傾向にある。

なお、平成 27 年の周産期死亡率は 3.4 と前年の 3.6 を下回り、全国 32 位となった。

図１　周産期死亡率の年次推移　佐賀県

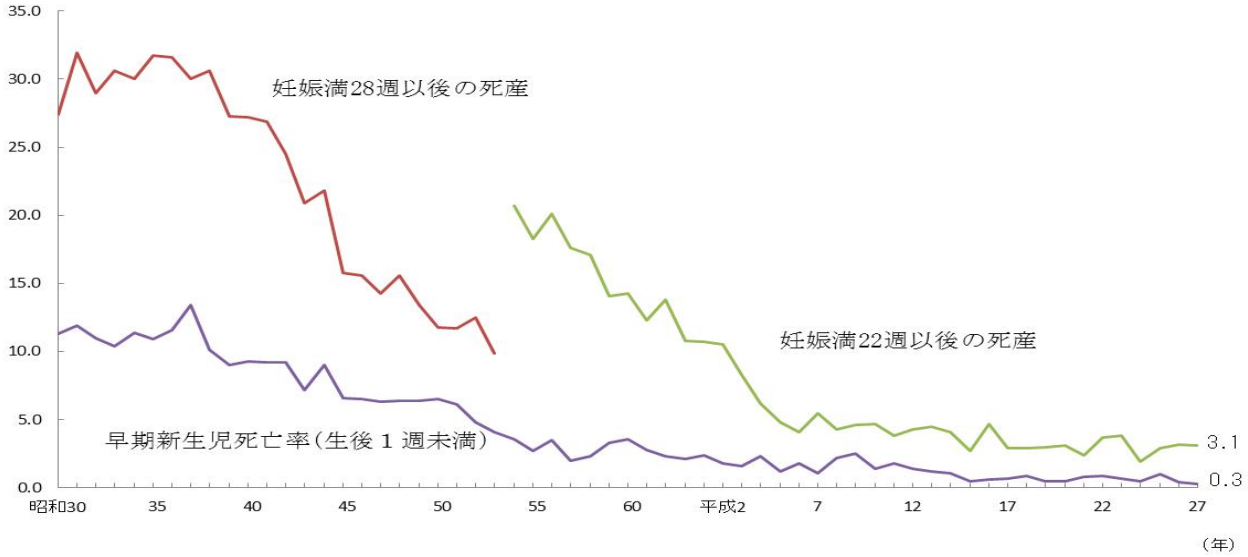


表１　周産期死亡数と率の年次推移

佐賀県

年次	周産期死亡		妊娠満22週以後の死産		早期新生児死亡		周産期死亡中妊娠満22週以後の死産のしめる割合（%）
	死亡数	死亡率	死産数	死産率	死亡数	死亡率	
昭和 30 年	862	38.7	611	27.4	251	11.3	70.9
35	737	42.6	549	31.7	188	10.9	74.5
37	657	43.3	454	30.0	203	13.4	69.1
40	527	36.5	393	27.2	134	9.3	74.6
45	296	22.4	209	15.8	87	6.6	70.6
50	240	18.3	155	11.8	85	6.5	64.6
55	266	20.9	232	18.3	34	2.7	87.2
57	242	19.5	218	17.6	24	2.0	90.1
60	212	17.9	170	14.3	42	3.6	80.2
平成 2	118	12.2	101	10.5	17	1.8	85.6
7	58	6.6	48	5.5	10	1.1	82.8
12	50	5.7	38	4.3	12	1.4	76.0
17	27	3.6	22	2.9	5	0.7	81.5
20	28	3.6	24	3.1	4	0.5	85.7
21	24	3.2	18	2.4	6	0.8	75.0
22	35	4.6	28	3.7	7	0.9	80.0
23	34	4.4	29	3.8	5	0.7	85.3
24	18	2.4	14	1.9	4	0.5	77.8
25	28	3.8	21	2.9	7	1.0	75.0
26	26	3.6	23	3.2	3	0.4	88.5
27	**24**	**3.4**	**22**	**3.1**	**2**	**0.3**	**91.7**
全国(27)	3 728	3.7	3 063	3.0	665	0.7	82.2

注：53年以前は満28週以後の死産

次に平成 27 年の周産期死亡を原因別にみると表 2 のとおりで、母側病態では「母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児」が 62.5%を占め、児側病態では「周産期に発生した病態」が 62.5%を占めている。

表２　妊娠満22週以後の死産-早期新生児死亡・原因別周産期死亡数と死亡割合（平成27年）

佐賀県

死因（母側病態・児側病態）		死亡数 総数	死亡数 妊娠満22週以後の死産	死亡数 早期新生児死亡	構成割合（%） 総数	構成割合（%） 妊娠満22週以後の死産	構成割合（%） 早期新生児死亡
総数		24	22	2	100.0	100.0	100.0
母側	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	15	13	2	62.5	59.1	100.0
	現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	8	8	-	33.3	36.4	-
	母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児及び新生児	1	-	1	4.2	-	50.0
	胎盤,臍帯及び卵膜の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	6	5	1	25.0	22.7	50.0
	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
	胎盤又は母乳を介して有害な影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
	母体に原因なし	9	9	-	37.5	40.9	-
児側	感染症及び寄生虫症	-	-	-	-	-	-
	新生物	1	1	-	4.2	4.5	-
	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-	-	-	-	-	-
	内分泌,栄養及び代謝疾患	-	-	-	-	-	-
	精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-
	神経系の疾患	-	-	-	-	-	-
	眼及び付属器の疾患	-	-	-	-	-	-
	耳及び乳様突起の疾患	-	-	-	-	-	-
	循環器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	呼吸器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	消化器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	皮膚及び皮下組織の疾患	-	-	-	-	-	-
	筋骨格系及び結合組織の疾患	-	-	-	-	-	-
	尿路性器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	周産期に発生した病態	15	15	-	62.5	68.2	-
	先天奇形,変形及び染色体異常	8	6	2	33.3	27.3	100.0
	症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	-	-	-	-	-	-
	損傷,中毒及びその他の外因の影響	-	-	-	-	-	-

第６章　婚姻と離婚

１　婚姻の動き

平成27年の本県の婚姻数は3,692件で前年の3,928 件より更に減少し、婚姻率（人口千対）は4.5で前年の4.7を下回り、昭和22年以降では最低となった。

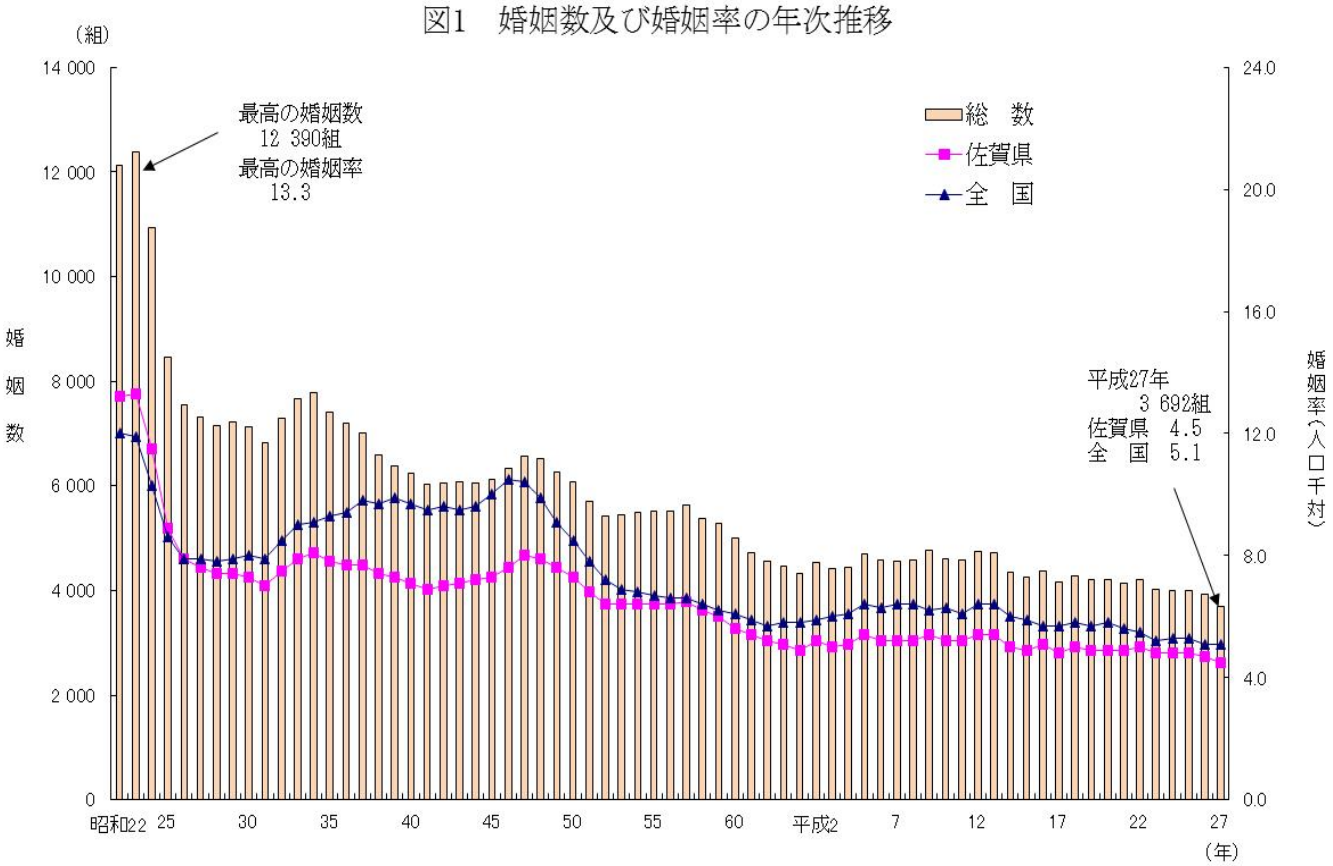
婚姻率の年次推移は、終戦直後の婚姻ブームのあと急速に低下し、昭和30年代の初めは上昇傾向にあったが、34年を境にしてゆるやかに低下を続けた。

40年代に入ると、戦後第2の婚姻ブームを反映して上昇を始めたが､47年をピークに低下し、平成17年の4.8まで低下傾向にあったが、それ以降はほぼ横ばいで推移している。

表１　婚姻数と率の年次推移

年次	婚姻数	婚姻率(人口千対)	
		佐賀県	全　国
昭和　22　年	12 133	13.2	12.0
25	8 451	8.9	8.6
30	7 134	7.3	8.0
35	7 400	7.8	9.3
40	6 230	7.1	9.7
45	6 118	7.3	10.0
50	6 086	7.3	8.5
55	5 511	6.4	6.7
60	5 012	5.6	6.1
平成　2	4 539	5.2	5.9
7	4 550	5.2	6.4
12	4 749	5.4	6.4
17	4 155	4.8	5.7
22	4 210	5.0	5.5
24	4 003	4.8	5.3
25	3 992	4.8	5.3
26	3 928	4.7	5.1
27	**3 692**	**4.5**	**5.1**

図1　婚姻数及び婚姻率の年次推移



2　結婚生活に入った年齢

平成 27 年に結婚生活に入り、届け出た人の平均初婚年齢は夫 30.2 歳、妻 28.9 歳で、夫も妻も徐々に上昇を続け、夫は平成 24 年に初めて 30 歳台となったが、平成 26 年は 23 年以来の 20 歳台となった。平成 27 年は再度 30 歳台となっている。

また、年齢別割合は夫妻ともに 25～29 歳が最も多く、夫 36.7%、妻 39.9%となっている。

表２　平均初婚年齢および夫妻の年齢差の年次推移(各届出年に結婚生活に入り届け出たもの)

年次	佐賀県			全国		
	夫	妻	年齢差	夫	妻	年齢差
昭和25年	25.7 歳	23.0 歳	2.7 歳	25.9 歳	23.0 歳	2.9 歳
30	26.3	23.6	2.7	26.6	23.8	2.8
35	27.0	24.4	2.6	27.2	24.4	2.8
40	27.3	24.8	2.5	27.2	24.5	2.7
45	26.7	24.1	2.6	26.9	24.2	2.7
50	26.6	24.5	2.1	27.0	24.7	2.3
55	27.4	25.1	2.3	27.8	25.2	2.6
60	27.9	25.5	2.4	28.2	25.5	2.7
平成 2	28.4	25.9	2.5	28.4	25.9	2.5
7	28.4	26.3	2.1	28.5	26.3	2.2
12	28.0	26.5	1.5	28.8	27.0	1.8
17	29.0	27.4	1.5	29.8	28.0	1.8
21	29.6	28.0	1.6	30.4	28.6	1.8
22	29.6	28.2	1.4	30.5	28.8	1.7
24	30.0	28.6	1.4	30.8	29.2	1.6
25	30.0	28.6	1.4	30.9	29.3	1.6
26	29.9	28.5	1.4	31.1	29.4	1.7
27	**30.2**	**28.9**	**1.3**	**31.1**	**29.4**	**1.7**

注：同居を始めたときの年齢による。

表３　初婚夫妻の年齢階級別割合　(平成27年)

佐賀県

	初婚者数				平成27年に結婚生活に入り届け出たもの(再掲)			
	実数		割合		実数		割合	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総数	2,949	3,110	100.0	100.0	2,649	2,786	100.0	100.0
20歳未満	70	114	2.4	3.7	55	94	2.1	3.4
20～24	554	670	18.8	21.5	480	571	18.1	20.5
25～29	1,077	1,233	36.5	39.6	971	1,112	36.7	39.9
30～34	666	655	22.6	21.1	605	608	22.8	21.8
35～39	340	297	11.5	9.5	319	276	12.0	9.9
40～44	147	98	5.0	3.2	136	92	5.1	3.3
45～49	54	26	1.8	0.8	50	20	1.9	0.7
50歳以上	40	16	1.4	0.5	33	13	1.2	0.5
不詳	1	1	0.0	0.0	-	-	-	-

注：同居を始めたときの年齢による。

3　離婚の動き

平成27年の本県の離婚数は1,354件で前年の1,324件より増加し、離婚率（人口千対）は1.63で前年の1.59を上回った。

離婚率の年次推移を図2でみると、昭和39年までは低下、その後は多少の起伏を伴いながらも上昇を続けていたが59年をピークに低下した。その後、平成2年以降上昇に転じたが、平成18年以降再び減少傾向となった。

同居期間別（表5）にみると、5年未満が419件（離婚件数の30.9%）で最も多く、次いで5～10年未満の300件（同22.2%）、20年以上の222件（同16.4%）となっている。

離婚件数を前年と比較すると、全体的に増加しているが、5年以上10年未満及び15年以上20年未満での増加が目立っている。

表4　離婚数と率の年次推移

年次	離婚数	離婚率（人口千対）	
		佐賀県	全　国
昭和22年	1 031	1.12	1.02
25	943	1.00	1.01
30	805	0.83	0.84
35	665	0.71	0.74
40	641	0.74	0.79
45	658	0.79	0.93
50	751	0.90	1.07
55	859	0.99	1.22
60	1 106	1.24	1.39
平成2年	991	1.13	1.28
7	1 224	1.39	1.60
12	1 635	1.87	2.10
17	1 759	2.04	2.08
19	1 542	1.80	2.02
22	1 536	1.82	1.99
24	1 471	1.75	1.87
25	1 436	1.72	1.84
26	1 324	1.59	1.77
27	**1 354**	**1.63**	**1.81**

図2　離婚数及び離婚率の年次推移

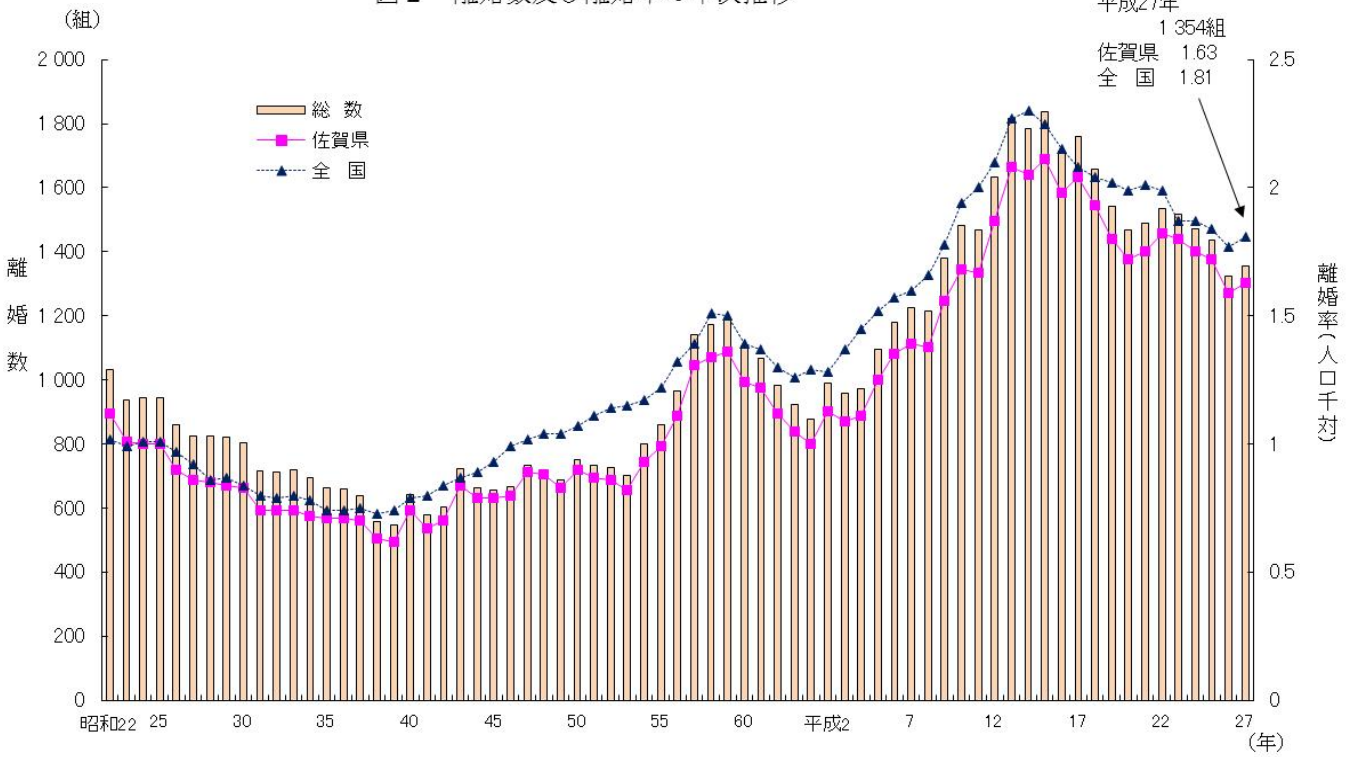


図３　同居期間別離婚数の年次推移（佐賀県）

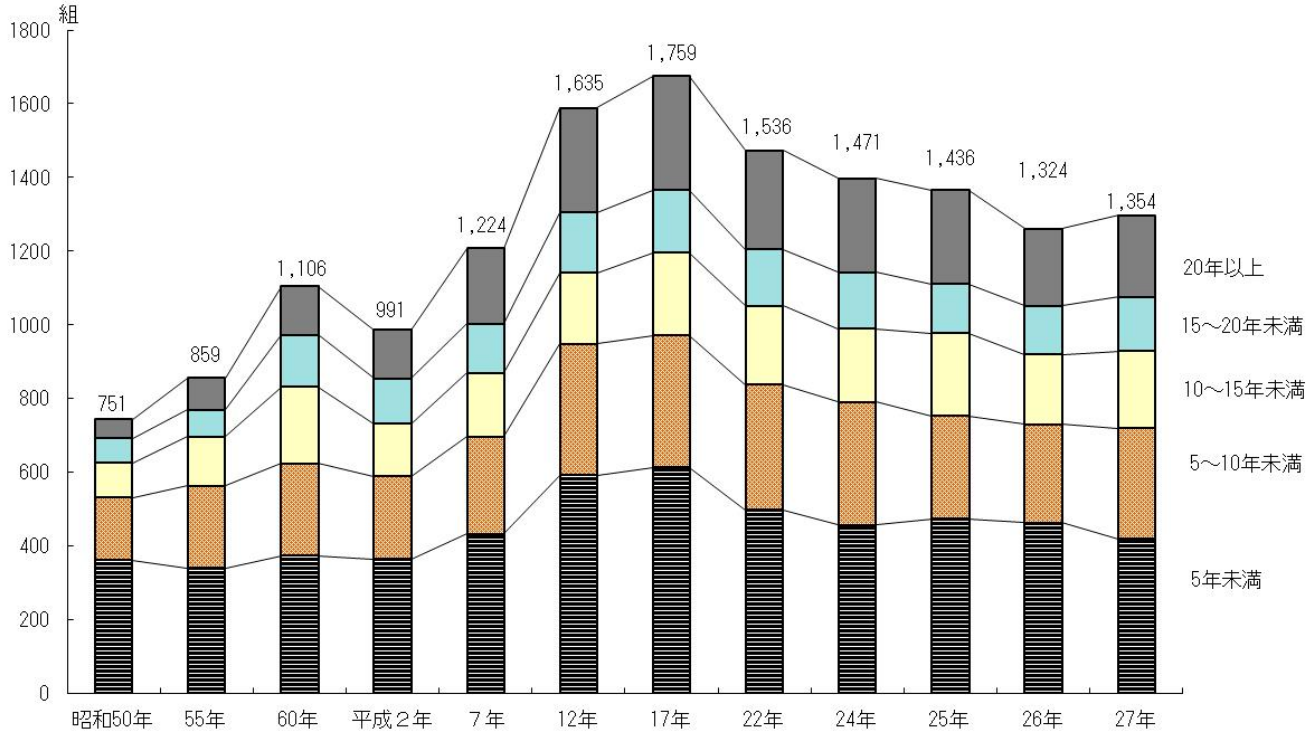


表５　同居期間別離婚数の年次推移

佐賀県

	昭和50年	55年	60年	平成２年	７年	12年	17年	22年	24年	25年	26年	平成27年		
												件数	割 合 %	対前年 増減率%
総数	751	859	1 106	991	1 224	1 635	1 759	1 536	1 471	1 436	1 324	**1 354**	**100.0**	**2.3**
5年未満	361	341	373	365	433	592	614	497	457	474	463	**419**	**30.9**	**△ 9.5**
5 ～ 10	170	222	251	223	263	355	357	340	334	278	266	**300**	**22.2**	**12.8**
10 ～ 15	94	134	208	144	174	194	226	215	198	225	191	**210**	**15.5**	**9.9**
15 ～ 20	67	73	140	122	133	164	169	153	154	134	132	**146**	**10.8**	**10.6**
20年以上	52	86	133	133	204	284	310	268	255	254	209	**222**	**16.4**	**6.2**
不詳	7	3	1	4	17	46	83	63	73	71	63	**57**	**4.2**	**△ 9.5**

注：総数には同居期間不詳を含む。

付表　　人口動態月別発生率　　佐賀県

	年次	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出生人口千対	昭和 45 年	15.8	17.8	16.4	15.7	15.8	15.1	14.3	16.5	15.2	15.1	14.0	14.0	15.9
	50	15.6	16.9	17.5	16.0	16.3	15.0	15.4	15.9	15.3	15.8	14.3	14.2	15.2
	55	14.4	14.2	15.6	14.1	15.1	14.0	14.2	15.7	14.9	14.8	13.3	13.1	14.1
	60	13.3	13.6	13.0	12.6	12.7	13.6	13.0	14.7	13.4	14.0	13.0	12.8	13.3
	平成 2 年	10.9	10.3	11.0	10.6	10.7	11.6	11.3	11.5	11.1	11.2	10.9	10.0	10.8
	7	9.9	10.1	9.4	9.4	9.4	10.4	10.1	10.3	10.7	10.5	9.1	9.1	10.1
	12	10.0	10.3	9.9	10.7	9.9	9.9	9.6	9.6	9.9	10.7	10.5	9.4	10.1
	17	8.7	8.9	8.8	9.1	8.5	8.4	9.3	9.1	8.0	9.2	8.3	8.2	8.6
	22	9.0	9.2	8.8	8.6	8.5	9.3	8.9	8.9	9.0	9.5	9.4	9.4	8.8
	24	8.9	9.1	r 8.4	9.3	8.7	9.0	8.8	8.5	8.8	r 9.3	r 9.2	8.9	8.3
	25	8.7	8.9	8.2	8.4	8.8	8.2	8.4	9.3	8.7	9.6	8.8	8.2	9.1
	26	8.6	9.3	8.2	8.1	8.5	8.5	8.3	8.9	9.0	9.1	8.1	8.4	8.9
	27	**8.5**	**8.4**	**8.8**	**8.3**	**8.4**	**8.7**	**8.7**	**8.5**	**8.2**	**9.1**	**8.5**	**8.1**	**8.4**
死亡人口千対	昭和 45 年	8.5	13.3	10.7	9.1	8.2	7.1	6.7	7.5	7.1	6.9	8.0	8.4	9.6
	50	8.0	9.0	8.3	8.5	8.5	7.9	6.5	8.1	7.4	7.0	7.9	8.1	9.3
	55	8.0	9.2	10.7	8.3	7.9	7.2	6.9	6.6	6.9	6.9	7.8	8.2	8.9
	60	7.7	8.9	8.7	8.1	7.6	6.9	6.9	6.4	6.9	6.9	7.4	8.1	10.2
	平成 2 年	8.3	9.8	9.1	8.9	8.2	7.7	7.2	7.4	8.0	8.1	7.8	8.6	8.7
	7	9.0	13.2	10.5	10.0	8.4	8.2	7.7	7.7	7.8	7.6	8.2	9.2	9.6
	12	9.0	11.4	11.4	9.8	9.7	8.2	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	9.2	9.7
	17	9.9	11.3	11.3	11.6	9.6	9.3	8.5	8.6	9.1	9.1	8.9	10.4	11.2
	22	10.9	12.5	11.4	11.0	11.0	11.2	9.9	9.4	9.8	10.1	10.4	11.9	12.0
	24	11.5	r 13.4	12.8	11.5	r 11.1	r 10.8	9.7	10.8	10.7	r 11.4	11.0	12.2	12.9
	25	11.5	14.3	12.7	12.3	11.4	11.0	9.5	10.2	10.6	10.8	11.6	11.0	12.8
	26	11.7	13.3	13.4	12.2	11.7	11.0	10.3	10.6	10.6	10.9	10.9	12.3	13.4
	27	**11.7**	**15.3**	**12.8**	**12.9**	**11.6**	**11.2**	**10.7**	**10.2**	**10.4**	**10.5**	**11.1**	**12.0**	**12.0**
乳児死亡出生千対	昭和 45 年	15.2	24.4	11.0	14.3	18.6	13.0	14.7	13.6	10.1	12.0	17.0	10.0	21.1
	50	10.6	8.6	6.6	13.7	5.3	14.7	9.8	13.1	10.6	11.0	9.8	10.2	9.9
	55	6.9	9.6	4.1	4.6	5.7	7.4	4.8	10.2	6.5	7.7	9.4	5.8	4.7
	60	6.0	4.9	6.6	7.9	6.2	8.9	5.1	7.0	7.6	3.1	4.0	5.2	5.0
	平成 2 年	4.6	5.0	1.4	3.7	1.3	3.7	5.1	4.9	3.7	1.3	7.4	10.2	7.4
	7	3.7	8.1	3.0	8.1	-	6.7	7.0	1.3	2.7	-	2.7	2.8	1.3
	12	2.9	4.1	1.4	1.4	7.0	5.4	1.4	1.4	1.4	4.2	1.4	1.4	4.1
	17	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	-	3.2	1.6	3.1	-	1.6	1.6	3.1
	22	2.4	1.5	3.4	1.5	1.6	4.6	1.6	1.5	4.6	-	3.1	4.8	-
	24	1.6	3.2	-	1.6	-	3.2	1.6	1.6	3.2	-	1.6	1.6	1.6
	25	3.2	r 4.9	r 5.4	-	3.3	r 8.1	r 3.3	r 3.2	-	r 1.7	3.2	r 1.7	r 3.2
	26	1.3	-	-	1.6	1.7	1.6	-	1.6	-	8.5	-	-	-
	27	**1.0**	**-**	**-**	**-**	**1.7**	**3.3**	**-**	**1.7**	**1.7**	**-**	**-**	**3.4**	**-**
死産出産千対	昭和 45 年	75.9	71.2	90.7	77.5	85.1	82.6	79.4	75.5	70.1	78.5	67.0	75.9	57.3
	50	57.7	52.2	58.6	60.2	64.3	62.3	38.9	67.1	67.1	61.3	56.6	54.2	48.5
	55	51.0	68.3	54.1	54.9	47.1	56.3	46.3	59.4	48.7	55.8	47.4	40.2	46.1
	60	51.2	47.9	57.1	53.3	63.1	72.8	47.6	44.5	44.9	38.1	51.0	46.2	47.1
	平成 2 年	49.2	56.5	57.3	48.3	44.8	45.4	38.0	45.8	52.9	60.7	51.6	48.8	40.5
	7	40.5	29.8	44.4	59.5	33.4	41.4	33.4	44.0	42.7	25.4	41.4	49.5	40.1
	12	40.7	32.4	36.0	51.8	36.1	44.0	54.9	37.6	35.0	40.1	36.3	41.5	42.7
	17	32.1	31.3	38.1	37.4	38.1	20.6	19.3	33.4	31.4	35.3	27.3	36.3	36.8
	22	29.6	20.7	35.4	44.7	31.2	29.1	34.5	34.6	24.1	25.0	32.8	16.6	27.8
	24	23.1	15.2	29.7	27.8	16.4	22.9	19.4	16.2	33.8	33.3	19.6	16.1	26.4
	25	21.1	23.2	18.7	21.4	19.4	22.0	30.4	22.3	25.3	15.0	21.8	14.0	19.8
	26	22.1	16.5	22.4	33.6	15.3	24.4	20.8	21.7	23.2	31.3	30.4	12.0	14.2
	27	**22.6**	**19.8**	**17.5**	**34.8**	**20.5**	**26.9**	**29.3**	**13.1**	**18.8**	**31.2**	**19.6**	**14.3**	**23.1**
婚姻人口千対	昭和 45 年	7.3	5.6	7.4	10.1	11.6	9.9	7.2	3.9	3.2	3.4	8.7	7.9	8.6
	50	7.3	5.6	7.7	10.2	11.6	11.4	5.9	3.6	2.1	3.0	9.2	9.0	8.0
	55	6.4	4.9	6.8	8.6	9.1	10.2	5.4	2.6	1.8	3.4	7.4	8.3	8.0
	60	5.6	3.3	5.4	8.1	8.1	9.0	4.9	3.0	1.8	4.2	7.2	7.5	6.0
	平成 2 年	5.2	3.1	4.7	7.0	6.9	7.4	6.0	3.2	1.9	3.1	6.6	6.7	5.4
	7	5.2	3.6	4.1	6.6	5.6	6.9	5.9	4.4	2.6	4.0	6.0	6.8	5.3
	12	5.4	5.3	5.5	6.7	5.4	5.9	5.5	4.9	3.2	5.1	5.5	6.3	6.2
	17	4.8	3.7	4.6	6.2	5.0	5.4	4.0	4.3	3.6	4.4	5.2	6.2	5.1
	22	5.0	4.2	6.1	5.4	5.0	5.0	4.2	4.6	4.1	4.5	5.7	5.8	5.3
	24	4.8	4.0	5.6	6.3	4.5	5.0	4.1	4.3	4.3	r 4 .1	4.5	r 5.5	r 5.1
	25	4.8	3.4	5.2	6.1	4.8	4.5	3.8	4.8	4.0	4.6	4.4	6.7	5.0
	26	4.7	4.1	5.8	6.1	5.3	4.5	3.8	4.5	4.0	3.7	4.3	6.4	4.4
	27	**4.5**	**3.9**	**4.2**	**7.0**	**3.9**	**4.6**	**3.6**	**4.2**	**4.1**	**3.6**	**4.2**	**5.4**	**4.8**
離婚人口千対	昭和 45 年	0.79	0.62	0.74	0.78	0.96	0.66	0.84	0.77	0.80	0.88	0.91	0.70	0.77
	50	0.90	0.93	1.01	0.89	1.00	0.94	0.89	0.93	0.82	0.95	0.86	0.79	0.83
	55	0.99	0.81	0.98	0.93	1.31	1.07	0.82	1.04	0.90	1.14	1.23	0.88	1.13
	60	1.24	0.94	1.38	1.33	1.12	1.21	1.09	1.35	1.34	1.20	1.39	1.19	1.37
	平成 2 年	1.13	0.98	1.04	1.69	1.18	1.25	1.19	1.28	0.93	0.99	0.99	0.96	1.07
	7	1.39	1.49	1.46	1.55	1.38	1.48	1.27	1.48	1.23	1.28	1.37	1.38	1.27
	12	1.87	1.36	2.12	1.86	2.07	2.13	1.79	2.00	1.69	1.90	1.92	1.62	2.00
	17	2.04	2.05	1.83	2.10	2.10	1.94	2.10	1.92	2.21	2.02	1.95	2.03	2.20
	22	1.82	1.82	2.26	2.25	1.98	1.47	1.78	1.57	1.91	1.94	1.61	1.68	1.53
	24	1.75	1.88	r 1.82	r 2.15	r 1.99	1.63	1.80	r 1.52	r 1.90	1.39	r 1.79	r 1.70	r 1.45
	25	1.72	1.52	1.89	1.99	1.59	1.75	1.75	1.55	1.61	1.72	1.94	1.46	1.87
	26	1.59	1.69	1.68	1.97	1.51	1.37	1.52	1.59	1.32	1.83	1.53	1.46	1.66
	27	**1.63**	**1.36**	**1.84**	**2.19**	**1.56**	**1.58**	**1.69**	**1.87**	**1.38**	**1.54**	**1.52**	**1.38**	**1.70**